

# VERITAS NetBackup BusinessServer™

---

## Getting Started Guide

UNIX（日本語版）

2000年11月  
P/N 30-000084-011

  
VERITAS

---

## 免責事項

本書に記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。**VERITAS Software Corporation**は、本書に関して、商品性や特定目的に対する適合性の黙示保証などの一切の保証を行いません。**VERITAS Software Corporation**は、本書に含まれるエラーや本書の提供、遂行、または使用に伴う付随的または間接的な損害に対して一切の責任を負わないものとします。

## 著作権

**Copyright © 1999-2000 VERITAS Software Corporation. All rights reserved.** VERITASは、米国およびその他の国における**VERITAS Software Corporation**の登録商標です。VERITASのロゴ、**VERITASNetBackup**、および**VERITASNetBackup BusinessServer**は、**VERITAS Software Corporation**の商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

本ソフトウェアの一部は、**RSA Data Security, Inc.**の**MD5 Message-Digest Algorithm**から派生したものです。**Copyright 1991-92, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All rights reserved.**

**Printed in the USA, November 2000**

VERITAS Software Corporation  
1600 Plymouth St.  
Mountain View, CA 94043  
電話 650-335-8000  
ファックス 650-335-8050  
[www.veritas.com](http://www.veritas.com)



# 目次

---

まえがき	vii
本書の構成	vii
製品の更新に関する電子メール通知	viii
表記規則	viii
一般の表記規則	viii
「注」と「注意」の違い	viii
キーの組み合わせ	ix
コマンドの書式	ix
テクニカル サポート	x
<b>第 1 章: はじめに</b>	<b>1</b>
NetBackup BusinessServer とは	2
バックアップ ポリシーとカタログ バックアップについて	2
バックアップ ポリシー	2
カタログ バックアップ	3
機能の紹介	3
サーバ	3
クライアント	4
Media Manager	5
ストレージ ユニット	5
複数のデータ ストリーム	6
マルチプレキシング	6
グラフィカル インタフェース	7
ウィザード	7



---

リモート管理 .....	8
別売りのオプション .....	9
<b>第 2 章 : インストールと初期設定 .....</b>	<b>11</b>
NetBackup BusinessServer のインストール .....	12
スクリプトの実行内容 .....	12
スクリプトの開始前に実行すべきこと .....	13
NetBackup BusinessServer のインストール方法 .....	14
Java インタフェース用ウィンドウ マネージャの設定 (Solaris/HP) .....	16
オペレーティング システムへのストレージ デバイスの設定 .....	17
初期設定ウィザードによるサーバの設定 .....	19
NetBackup 管理インタフェースの起動 .....	19
初期設定ウィザード .....	22
NetBackup クライアントのインストール .....	25
Windows 95/98/2000/NT 4.0 .....	25
NetWare Target および Nontarget .....	25
Macintosh .....	26
OS/2 Warp .....	27
UNIX .....	27
別の管理インタフェースのインストール .....	33
NetBackup 管理クライアント .....	33
NetBackup-Java Display Console for Windows .....	34
NetBackup のエージェントとオプションのインストール .....	35
<b>第 3 章 : アップグレード インストールの実行 .....</b>	<b>37</b>
システム要件 .....	37
NetBackup 3.4 を再インストールできるようにするには .....	37
サーバおよびクライアントへのソフトウェアのインストール .....	38
インストール前 .....	38
手順 .....	38
アップグレード後 .....	40



---

第 4 章 : 日常の管理 .....	43
NetBackup アシスタント .....	44
ストレージ デバイスの管理 .....	46
デバイスの管理 .....	46
ストレージ ユニットの管理 .....	48
デバイスの監視 .....	51
ボリュームの管理 .....	53
ボリュームの設定ウィザード .....	53
[メディアとデバイス管理]ユーティリティ .....	54
メディア (テープ) の管理 .....	55
カタログ バックアップ メディア (テープ) の管理 .....	55
Media Manager の設定へのボリューム (テープ) の追加 .....	58
カタログ バックアップの設定 .....	59
カタログ バックアップに必要なメディアの選択 .....	59
カタログ バックアップのスケジュールの選択 .....	60
NetBackup カatalog バックアップ ウィザードの使い方 .....	61
カタログ バックアップのリストア方法 .....	61
バックアップ ポリシー (クラス) の設定 .....	62
NetBackup 設定のテスト .....	75
自動電子メール通知の設定 .....	78
一般的な通知の場合 .....	78
UNIX クライアントでのクライアント / ユーザ指定のアクティビティの通知 .....	78
レポートの生成 .....	79
別のクライアントへのリストアを許可するためのサーバの設定 .....	81
NetBackup クライアント インタフェースの使い方 .....	82
Windows 95/98/2000/NT 4.0 .....	82
NetWare Target .....	83
NetWare NonTarget .....	84
Macintosh .....	86
OS/2 Warp .....	86



---

UNIX .....	87
<b>第 5 章 : トラブルシューティング .....</b>	<b>89</b>
トラブルシューティング手順 .....	90
トラブルシューティング ウィザード .....	91
トラブルシューティング ウィザードへのアクセス .....	91
トラブルシューティング ウィザードの使い方 .....	91
<b>付録 A : 関連マニュアル .....</b>	<b>93</b>
リリース ノート .....	93
入門ガイド .....	93
『Getting Started Card』 .....	93
インストール ガイド .....	94
システム管理者ガイド - 基本製品 .....	94
システム管理者ガイド - エージェントとオプション .....	94
ユーザ ガイド .....	99
デバイス設定ガイド - Media Manager .....	100
トラブルシューティング ガイド .....	100
<b>付録 B : NetBackup BusinessServer とクライアントの アンインストール .....</b>	<b>101</b>
BusinessServer のアンインストール方法 (Solaris) .....	101
BusinessServer のアンインストール方法 (HP) .....	102
NetBackup クライアントのアンインストール方法 .....	103
UNIX NetBackup pクライアント ソフトウェアのアンインストール方法 .....	104
<b>索引 .....</b>	<b>107</b>



## まえがき

---

本書では、NetBackup システム管理者向けに NetBackup BusinessServer™ のインストール、設定、および使用について説明します。NetBackup システム管理者は、NetBackup を使用したバックアップおよびリストア計画の保守を担当します。

本書は、以下の事項を前提とします。

- ◆ UNIX システム管理に関する基本的な知識を有していること。
- ◆ NetBackup BusinessServer のインストール先の Solaris または HP システムに関する経験を有していること。
- ◆ SCSI デバイスがオペレーティング システムに正しく装着され、設定されていること。

---

**注意**      デバイスがオペレーティング システムに正しく設定されていない場合は、そのデバイスに対して行われたバックアップのリストアが困難になることがあります。

---

## 本書の構成

- ◆ 第 1 章「はじめに」では、NetBackup BusinessServer について簡単に紹介し、主な機能について説明します。
- ◆ 第 2 章「インストールと初期設定」では、Solaris と HP の各プラットフォームのために作成されたインストール スクリプトの使い方について詳しく説明します。ウィザードを使用する場合とその使い方についても詳しく説明します。
- ◆ 第 3 章「アップグレード インストールの実行」では、NetBackup のアップグレード手順について説明します。
- ◆ 第 4 章「日常の管理」では、NetBackup の日常的な操作手順について説明します。NetBackup の操作に関するステータスの確認とテープの管理については、ここで説明します。設定ウィザードを補完する高度な設定手順についても説明します。
- ◆ 第 5 章「トラブルシューティング」では、NetBackup のエラーをトラブルシューティングする際のガイドラインを提供します。
- ◆ 付録 A 「関連マニュアル」では、NetBackup のマニュアルについて説明します。
- ◆ 付録 B 「NetBackup BusinessServer とクライアントの アンインストール」では、NetBackup ソフトウェアをアンインストールする方法について説明します。



## 製品の更新に関する電子メール通知

NetBackup BusinessServer 製品のニュースと更新情報を電子メールで通知されるようにするには、以下の手順でサインアップします。

1. [www.veritas.com](http://www.veritas.com) にアクセスします。
2. [Support] をクリックします。
3. [Technical Support Services] で、[Email Notification] リンクをクリックします。
4. 必要な情報を入力し、製品の一覧で [NetBackup BusinessServer] を選択します。

## 表記規則

本書で採用している一般的な表記規則について説明します。

### 一般の表記規則

表 1. 一般の表記規則

表記	用途
英字等幅フォント太字	入力する文字。例: <b>cd</b> と入力して、ディレクトリを変更してください。
英字等幅フォント	パス、コマンド、ファイル名、および出力。例: デフォルトのインストール ディレクトリは <code>/opt/VRTSxx</code> です。
『』	ドキュメントなどのタイトル。
「」	章や項目のタイトル、強調する用語。
英字ゴシック体 (斜体)	ブレースホルダーテキストまたは変数。例: <i>filename</i> には、実際のファイル名を指定してください。
英字ゴシック体 (斜体以外)	フィールド名、メニュー項目など、グラフィカルユーザインタフェース (GUI) のオブジェクト。例: [Password] フィールドに、パスワードを入力してください。

### 「注」と「注意」の違い

---

**注** 「注」はこのように表記され、製品をより簡単に使用するための情報や、問題を回避するための情報を取り上げます。

---

**注意** 「注意」はこのように表記され、データの損失につながる可能性がある状況を警告します。

---





## キーの組み合わせ

キー操作によるコマンドでは、同時に複数のキーを使用する場合があります。たとえば、**Ctrl** キーを押しながら、別のキーを押します。このようなコマンドは、プラス記号 (+) でつないで表記します。

例: **Ctrl+T** を押します。

## コマンドの書式

コマンドの書式では、以下の表記規則が一般的に使用されます。

### 角かっこ []

コマンドライン内にある角かっこで囲まれたコンポーネントは、オプションのコンポーネントです。

### 垂直バーまたはパイプ (|)

オプションの引数を区切ります。ユーザは、これらのオプションの引数から必要な引数を選択できます。たとえば、コマンドの書式が次のとおりであるとします。

```
command arg1 | arg2
```

ユーザは、*arg1* または *arg2* のいずれかの変数を使用できます。



## テクニカル サポート

この製品に関するシステム要件、サポートされているプラットフォーム、サポートされている周辺機器、テクニカル サポートから入手できる最新のパッチなどの最新情報については、弊社の **Web** サイトをご利用ください。

<http://www.veritas.com/jp> (日本語)

<http://www.veritas.com/> (英語)

製品に関するサポートは、**VERITAS** テクニカル サポートまでお問い合わせください。

電話: (03)3509-9210

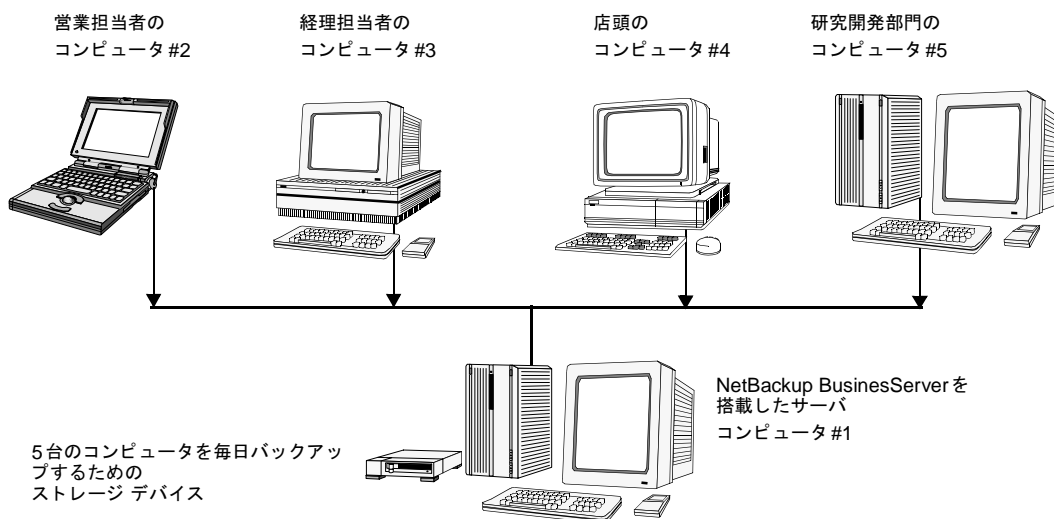
FAX : (03)5532-8209

**VERITAS** カスタマ サポートへのお問い合わせの際は、次の電子メール アドレスもご利用いただけます。

[support.jp-es@veritas.com](mailto:support.jp-es@veritas.com)



NetBackup BusinessServer は、1 台のサーバと最大 4 台のリモート コンピュータのデータのバックアップとリストアにおいて、操作性と信頼性に優れたソリューションを提供します。代表的な設置例を次の図に示します。



サーバ（コンピュータ #1）には、NetBackup BusinessServer ソフトウェアがインストールされています。リモート コンピュータ（#2～#5）には、NetBackup クライアント ソフトウェアがインストールされています。

この章では、NetBackup の主要な用語について説明します。NetBackup BusinessServer の機能についても説明します。



## NetBackup BusinessServer とは

NetBackup BusinessServer は、NetBackup DataCenter 製品の簡易バージョンです。NetBackup DataCenter サーバは、多数のリモート コンピュータおよびハイエンド ストレージ デバイスをサポートし、大規模で複雑なコンピュータ ネットワーク向けの機能を提供します。一方、NetBackup BusinessServer は、サーバと最大でも 4 台 (Client Expansion Pack を使用する場合は最大 8 台) のリモート コンピュータのバックアップを行う小規模ネットワーク向けに設計されています。また、機能が制限された中小規模のストレージ デバイスを使用します。

NetBackup BusinessServer は、NetBackup DataCenter の機能の大半を継承しています。ここでは、その機能の一部について説明します。

## バックアップ ポリシーとカタログ バックアップについて

### バックアップ ポリシー

「バックアップ ポリシー」とは、ビジネス データをバックアップするための NetBackup の設定です。各バックアップ ポリシー (クラス) は、共通のバックアップ要件を持つ 1~4 台のクライアントのグループに対してバックアップ方法と時期を指定します。バックアップ ポリシーでは、以下の項目を定義します。

- ◆ バックアップ対象のコンピュータ
- ◆ バックアップ対象のファイルとディレクトリ
- ◆ バックアップを行う時期と回数
- ◆ バックアップの保持期間
- ◆ バックアップの保存先
- ◆ バックアップをカスタマイズするためのその他の属性

バックアップ ポリシーの設定の詳細については、「バックアップ ポリシー (クラス) の設定」(62 ページ) を参照してください。

---

**注** 本書では、バックアップ ポリシーによって定義されるバックアップを「レギュラー バックアップ」と呼び、「カタログ バックアップ」と呼ばれる別の種類のバックアップと適宜区別しています。

---

## カタログ バックアップ

レギュラーバックアップに関する重要な情報は、「カタログ」と呼ばれる特別なファイルのセットに保存されます。カタログには、設定、ステータス、エラー、および **BusinessServer** によってバックアップされたファイルとディレクトリに関する情報が記録されます。カタログには、データのバックアップ先も記録されます。カタログ内の情報は、**NetBackup** の操作に必要です。カタログバックアップは、カタログのバックアップ コピーのことです。

ディスクの障害によってカタログ ファイルが失われた場合は、カタログ バックアップからカタログをリストアするのが最も簡単です。これにより、バックアップしておいたデータをリストアし、レギュラーバックアップをスケジュール通りに再開することができます。

カタログ バックアップの設定の詳細については、「カタログ バックアップの設定」 (59 ページ) を参照してください。

## 機能の紹介

ここでは、**NetBackup BusinessServer** に関する **NetBackup** の用語と機能を紹介します。

各機能の詳細については、『**NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX**』を参照してください。

## サーバ

サーバは、**NetBackup BusinessServer** ソフトウェアがインストールされているコンピュータです。**NetBackup BusinessServer** には、コマンドライン インタフェースとグラフィカル ユーザー インタフェースの両方があります。いずれのインタフェースでも、以下の操作を行うことができます。

- ◆ サーバと最大 4 台 (**Client Expansion Pack** を使用した場合は 8 台) のリモート コンピュータに対するバックアップ操作を設定する。
- ◆ 自動の無人バックアップ (レギュラーバックアップ) をスケジュールする。たとえば、昼間の通常の操作に支障がないように、自動バックアップを夜間だけに行うようにスケジュールすることができます。
- ◆ 各クライアントの手動バックアップを実行する。
- ◆ クライアントのユーザが独自にバックアップとリストアを実行できるようにする。
- ◆ バックアップの保存先を指定する。
- ◆ バックアップ データの保持期間を指定する。
- ◆ データのリストア先を指定する。
- ◆ **NetBackup** のバックアップとリストアを確認、管理、およびトラブルシューտするためのレポートを生成する。各レポートには、**NetBackup** のサーバおよびクライアントのステータスや問題に関する情報が表示されます。



- ◆ バックアップ ジョブおよびリストア ジョブのステータスを監視する。
- ◆ テープ デバイスおよびストレージ デバイスを設定し、管理する。

**注** NetBackup DataCenter ではメディア サーバと呼ばれるリモート NetBackup サーバに接続されたテープ ドライブを利用できます。NetBackup BusinessServer ではリモート メディア サーバを使用できません。BusinessServer システムでデバイスを設定する場合は、以下のすべての用語が NetBackup サーバ コンピュータを指すことに注意してください。

- マスタ サーバ
- メディア サーバ
- Media Manager ホスト
- ボリューム データベース ホスト
- デバイス ホスト
- ロボット制御ホスト

## クライアント

NetBackup BusinessServer では、サーバと NetBackup クライアント ソフトウェアがインストールされた最大 4 台 (Client Expansion Pack を使用した場合は最大 8 台) のリモート コンピュータをバックアップできます。通常、コンピュータは以下のような組み合わせで使用できます。NetBackup によってサポートされているオペレーティング システムのバージョンとハードウェアの種類の詳細については、『NetBackup Release Notes』を参照してください。

AIX	HP-UX HP900-800	OS/2
Auspex	IRIX	ReliantUNIX
Compaq Tru64	Linux	SCO
DG/UX	Macintosh	Solaris
DYNIX/ptx	NCR SVR4MP-RAS	Windows NT/2000、95、98
HP-UX HP900-700	NetWare	UNIX



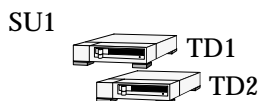
## Media Manager

**Media Manager** は、**NetBackup** の一部であり、ロボット、テープドライブ、およびリムーバブルメディア（通常はテープ）の管理に使用します。**NetBackup** の管理画面では、リムーバブルメディアをボリュームと呼びます。**Media Manager** の主なツールは、以下の通りです。

- ◆ コマンドライン インタフェース。
- ◆ [メディアとデバイス管理] グラフィカル インタフェース。ストレージ デバイスとボリュームを設定するためのユーティリティです。
- ◆ デバイス モニタ グラフィカル インタフェース。ボリュームに対する保留中のリクエストが表示されます。デバイスの制御および管理に使用します。
- ◆ デバイスの設定ウィザード
- ◆ ボリュームの設定ウィザード

## ストレージ ユニット

ストレージ ユニットは、バックアップ データが保存されるストレージ デバイスのコレクションです。ストレージ ユニットは、**1** 台のロボットと最大 **2** 台のドライブまたは **2** 台のスタンドアロンテープドライブで構成されます。スタンドアロンドライブは、ロボットに含まれない単独のドライブです。たとえば、**2** 台のスタンドアロンテープドライブ (**TD1** と **TD2**) で **SU1** という単一のストレージ ユニートを構成できます。**2** 台のドライブで単一のストレージ ユニートを構成する場合は、両方のドライブのタイプが同じでなければなりません。



この例では、ストレージ ユニット **SU1** は物理デバイスではありません。ストレージ ユニット **SU1** は、**2** 台のストレージ デバイスで構成されたグループです。

タイプの異なるテープドライブをそれぞれ別のストレージ ユニットに挿入する方法もあります。ストレージ ユニートを構成すると、使用中のストレージ デバイスがある場合に、バックアップジョブを別のストレージ デバイスに送ることができます。ストレージ ユニットを使用すると、バックアップごとに使用するデバイスのグループを指定することもできます。



## 複数のデータ ストリーム

NetBackup BusinessServer では、単一のバックアップ ポリシーを使用して、クライアントの複数のファイルまたはディレクトリを同時にバックアップできます。たとえば、NetBackup クライアント ソフトウェアがインストールされたリモート コンピュータに2台のハードディスクドライブがあるとしたら、

- ◆ ドライブ C :には、給与計算ソフトウェアおよびファイルを含むディレクトリがあります。
- ◆ ドライブ D :には、税金情報を含むディレクトリがあります。

両方のドライブを夜間に短時間でバックアップするには、両方のドライブを同時にバックアップするように NetBackup BusinessServer を設定します。

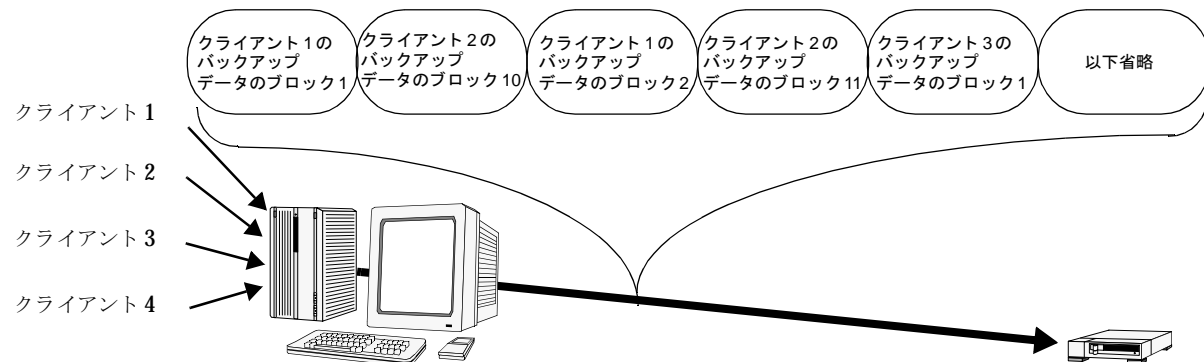
**注** 複数の異なるドライブのバックアップを並行処理すると処理時間を短縮できます。同じドライブの複数のバックアップを並行処理すると、かえって時間がかかるため、お勧めできません。

処理が遅くなるのは、複数のデータ ストリームのトラック間をドライブ ヘッドが往復しなければならないためです。ドライブ ヘッドの余分な往復によって、ドライブの磨耗も進みます。データが複数の異なるドライブにある場合は、ドライブ ヘッドの余分な往復はありません。

## マルチプレキシング

マルチプレキシングを使用すると、最大8つのバックアップを同時に単一のテープに送信できます。マルチプレキシングでは、バックアップ データの各ブロックがテープ上にインタリーブされます。次の図は、4台のクライアントのデータ ストリームがマルチプレキシングによって保存される方法を示しています。

データ ストリーム



並行処理されるバックアップの数が8を超えると、余分なジョブはほかのジョブが終了するまでキューに入ります。



## グラフィカル インタフェース

NetBackup には、以下のグラフィカル (Java ベース) インタフェースがあります。

- ◆ NetBackup 管理の Java インタフェース (jnbSA)。サーバ側で NetBackup の設定、スケジューリング、監視、および管理を実行できます。
- ◆ NetBackup Java ユーザ インタフェース (jbpSA)。クライアント側でバックアップ、アーカイブ、およびリストアを開始できます。

## ウィザード

NetBackup BusinessServer には、以下のウィザードがあります。

ウィザード	説明
初期設定	<p>手順を追って NetBackup を設定するためのヘルプを提供します。このウィザードでは、以下の初期設定手順を処理できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ デバイスの設定ウィザード</li> <li>◆ ボリュームの設定ウィザード</li> <li>◆ カタログ バックアップ ウィザード</li> <li>◆ バックアップ ポリシーの設定ウィザード</li> <li>◆ 設定を確認するためのテスト</li> </ul> <p>詳細については、「初期設定ウィザードによるサーバの設定」(19 ページ)を参照してください。</p>
デバイスの設定	<p>ロボットとドライブを定義できます。詳細については、「デバイスの設定ウィザード」(46 ページ)を参照してください。</p>
ボリュームの設定	<p>ロボットおよびスタンドアロンドライブのボリュームを定義できます。詳細については、「ボリュームの設定ウィザード」(53 ページ)を参照してください。</p>
NetBackup カタログ バックアップ	<p>NetBackup カタログのバックアップ方法と時期を設定できます。詳細については、「NetBackup カタログ バックアップ ウィザードの使い方」(61 ページ)を参照してください。</p>
バックアップ ポリシーの設定	<p>単一のクライアントまたはクライアントのセットに対してレギュラー バックアップを設定できます。この設定はバックアップ ポリシーと呼ばれます。詳細については、「ウィザードによるバックアップ ポリシーの作成」(62 ページ)を参照してください。</p>
トラブルシューティング	<p>バックアップまたはリストアの失敗の原因となった問題を解決できます。詳細については、「トラブルシューティング ウィザード」(91 ページ)を参照してください。</p>

トラブルシューティングを除くすべてのウィザードは、NetBackup アシスタントから起動できます。アシスタントは、NetBackup 管理インタフェースが起動するたびに表示されます。ただし、アシスタントで [起動時にアシスタントを常に表示] チェックボックスが選択されていない場合を除きます。



## リモート管理

別の同等または下位バージョンの **NetBackup** サーバを管理するには、**NetBackup** サーバで **NetBackup** 管理の **Java** インタフェース (**jnbSA**) を使用します。バージョンが異なる場合は、一部の操作が実行できないことがあります。下位バージョンのサポートの詳細については、『**NetBackup Release Notes**』で「**Operational Notes**」の「**General**」を参照してください。ほかの **NetBackup** サーバをリモート管理するためにシステム上の **NetBackup** を設定するには、ほかに以下の2通りの方法があります。

- ◆ **NetBackup** 管理クライアント
- ◆ **NetBackup-Java Display Console for Microsoft Windows**

### **NetBackup** 管理クライアント

**NetBackup** 管理クライアントは、**Windows NT/2000** 版の **NetBackup** です。**UNIX** または **Windows NT/2000** の **NetBackup** サーバをリモート管理できます。このバージョンには、リモート **NetBackup** サーバでのバックアップの設定、ボリュームの管理、ステータスの表示、テープドライブの監視などに必要な **NetBackup BusinessServer** のすべての標準インタフェースが含まれています。

---

注 **NetBackup** 管理クライアントは、**NetBackup** サーバとしては使用できません。ほかの **NetBackup** サーバ (**UNIX** または **Windows NT/2000**) をリモート管理するためだけに使用します。

---

### **NetBackup-Java Display Console for Microsoft Windows**

**NetBackup-Java Display Console** を使用すると、**Windows NT/2000**、**98**、または **95** の各システムで **NetBackup** の **Java** インタフェースを使用できます。**PC** 上の **Java** インタフェースを使用して **UNIX NetBackup** サーバにログオンできます。この方法により、ログオンした **UNIX** サーバで **NetBackup** のすべての機能を実行できます。たとえば、サーバのファイルシステムをブラウズし、[バックアップ、アーカイブ、およびリストア]ユーティリティを使用してバックアップを開始できます。

## 別売りのオプション

NetBackup BusinessServer では、以下の別売りのオプションも使用できます。

### データベース エージェント

- ◆ NetBackup for Oracle on UNIX
- ◆ NetBackup for Oracle on Windows NT/2000
- ◆ NetBackup for Sybase on UNIX
- ◆ NetBackup for Informix on UNIX
- ◆ NetBackup for Lotus Notes for UNIX
- ◆ NetBackup for Lotus Notes on Windows NT/2000
- ◆ NetBackup for MS-SQL Server on Windows NT/2000
- ◆ NetBackup for MS Exchange Server on Windows NT/2000

### 機能のアドオン

- ◆ **Intelligent Disaster Recovery (IDR)**。障害後の Windows NT 4.0/2000 コンピュータをすばやくリカバリできます。
- ◆ **Open Transaction Manager (OTM)**。Windows NT/2000 クライアントで開いている（現在使用されている）ファイルをバックアップできます。
- ◆ **NetBackup Encryption (40ビットまたは56ビット)**。バックアップおよびアーカイブをファイル レベルで暗号化できます。
- ◆ **NDMP**。NDMP (Network Data Management Protocol) を使用すると NDMP ホストでのバックアップとリストアを制御できます。
- ◆ **Client Expansion Pack**。最大4台までのクライアントを追加できます。

### Global Data Manager

- ◆ **Global Data Manager (GDM)**。単一のコンソールから複数の NetBackup サーバを同時に管理できるようになります。





NetBackup BusinessServer に用意されているウィザードを使用すると、ソフトウェアのインストールと設定を簡単に行うことができます。

この章では、NetBackup BusinessServer のインストールと設定に関する以下の手順について説明します。

- ◆ NetBackup BusinessServer のインストール
- ◆ オペレーティング システムへのストレージ デバイスの設定
- ◆ 初期設定ウィザードによるサーバの設定
- ◆ NetBackup クライアントのインストール
- ◆ 別の管理インタフェースのインストール
- ◆ NetBackup のエージェントとオプションのインストール (オプション)

---

**注** 製品更新に関する電子メール通知にまだサインアップしていない場合は、ここでサインアップしてください (「まえがき」の「製品の更新に関する電子メール通知」を参照)。

---



## NetBackup BusinessServer のインストール

---

注 アップグレードを実行する場合は、37 ページの「アップグレード インストールの実行」を参照してください。

---

NetBackup BusinessServer のインストール スクリプトを実行する前に、以下の「スクリプトの実行内容」と「スクリプトの開始前に実行すべきこと」の項目を確認してください。

### スクリプトの実行内容

NetBackup BusinessServer をサーバにインストールするほかに、インストール スクリプトは以下のことを実行します。

- ◆ **BusinessServer** のホスト名をサーバの `/usr/opensv/netbackup/bp.conf` ファイルに記録します。
- ◆ **NetBackup** および **Media Manager** のサービス（ロボティック デーモンなど）用の `/etc/services` ファイルにエントリを追加します。`/etc/services` には、**UNIX** のシステム情報が含まれています。スクリプトはデフォルトのポート番号を表示し、ポート番号を変更するかどうかをユーザに確認します。
- ◆ サーバが **NIS (Network Information System)** を実行中であるかどうかを確認します。**NIS** は、**UNIX** のディレクトリ サービス ユーティリティです。**NIS** が実行中の場合は、ユーザに対して **NIS** のサービス マップにエントリを追加するように要求します。
- ◆ サーバの `/etc/inetd.conf` ファイルにエントリを追加します。`/etc/inetd.conf` ファイルはネットワーク機能を提供します。`bpcd`、`vopied`、および `bpjava-msvc` のエントリを追加したら、`inetd` に `SIGNAL` を送信して更新ファイルを読み取らせませす。
- ◆ 自動起動スクリプトを `/etc/rc2.d` ディレクトリ (**Solaris**)、または `/sbin/rc2.d` ディレクトリ (**HP**) に追加します。ほかのシステムでは、このスクリプトは別のディレクトリに置かれる可能性があります。オペレーティング システムをリポートすると、このスクリプトは **NetBackup** と **Media Manager** のデーモンを自動的に起動します。

## スクリプトの開始前に実行すべきこと

インストールを開始する前に、この節の項目を確認してください。

### インストール要件

- ◆ サポートされているハードウェア タイプのサーバ。サポートされているバージョンのオペレーティング システムを実行し、十分な空きディスク領域とサポートされている周辺装置を備えている必要があります。これらの要件の詳細については、『NetBackup Release Notes』を参照してください。
- ◆ NetBackup の Java インタフェースの適切なパフォーマンスを実現するために、256MB の RAM を推奨します。256MB のうち 128MB は、インタフェース プログラム (jnbSA や jbpSA) が使用します。
- ◆ NetBackup CD-ROM。
- ◆ サーバの root ユーザのパスワード。
- ◆ サーバ ソフトウェアのインストールの所要時間は約 20 分です。環境に合わせて製品を設定するには、さらに時間が必要です。
- ◆ 周辺装置およびプラットフォームの一部では、カーネルの再設定が必要です。詳細については、『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administrator's Guide - UNIX』を参照してください。
- ◆ ソフトウェアをインストールするための十分な空きディスク領域 (バイナリ サイズについては、『NetBackup Release Notes』を参照)。
- ◆ NetBackup サーバがクライアント システムを認識し、かつクライアント システムによって認識されなければなりません。環境によっては、相手方の /etc/hosts ファイルで定義する必要があります。また、NIS (Network Information Service) または DNS (Domain Name Service) を使用する環境もあります。
- ◆ NetBackup の構成に使用するデバイスを指定します。これらのデバイスが、BusinessServer がサポートしているデバイスの一覧 (リリース ノート を参照) に掲載されているかどうかを確認します。BusinessServer では、最大 2 台のドライブと 1 台のロボティック デバイスを使用できます。ロボティック デバイスのドライブ数が 2 を超える場合またはスロット 数が 22 を超える場合は、そのデバイスを使用できません。



### インストールに関する注意事項

- ◆ NetBackup サーバのインストール先には、ソフトウェアのほかに NetBackup カタログが含まれるため、インストール先のサイズが非常に大きくなる場合があります。
  - ◆ Solaris への NetBackup のインストールでは、デフォルトのインストール先は /opt/openv となり、/usr/openv へのリンクが作成されます。
  - ◆ HP への NetBackup のインストールでは、デフォルトのインストール先は /usr/openv になります。
- 領域に問題がある場合は、NetBackup を別のファイルシステムにインストールすることを検討してください。インストール中に別のインストール先を選択し、/usr/openv へのリンクを作成することができます。
- ◆ この製品ではファイル ロックが使用されています。NFS マウントしたディレクトリには NetBackup をインストールしないでください。NFS マウントしたファイルシステムでは、ファイル ロックの信頼性に問題があります。
- ◆ Hewlett Packard 社のサーバの場合は、長いファイル名をサポートするファイルシステムに NetBackup をインストールしてください。

## NetBackup BusinessServer のインストール方法

1. root ユーザとしてサーバにログインします。
2. CD-ROM をドライブに挿入します。
3. (HP システムのみ) NetBackup CD-ROM は Rockridge フォーマットであるため、以下のコマンドを入力してマウントする必要があります。

```
nohup pfs_mountd &
nohup pfsd &
pfs_mount -o xlat=unix /dev/dsk/device-ID /cdrom
```

*device\_ID* は、CD-ROM ドライブの ID です。

4. 作業ディレクトリを以下の CD-ROM ディレクトリに変更します。

```
cd cd_rom_directory
```

*cd\_rom\_directory* は、CD-ROM にアクセスできるディレクトリのパスです。プラットフォームによっては、ディレクトリをマウントする必要があります。

5. 以下のインストール スクリプトを実行します。

```
./install
```

メニューが表示されたら、オプション 1 (NetBackup) を選択します。このオプションを選択すると、サーバに Media Manager と NetBackup ソフトウェアの両方がインストールされます。





6. インストール スクリプトのプロンプトに従います。

**注** インストール スクリプトによって、NetBackup がサポートする UNIX クライアント タイプ別の UNIX クライアント ソフトウェアをサーバにロードするオプションが表示されます。後で、このクライアント ソフトウェアをサーバから UNIX クライアントに「送る」ことができます（「NetBackup クライアントのインストール」（25 ページ）の「UNIX」を参照）。

バックアップするすべての UNIX クライアント タイプ用のソフトウェアをサーバに正しくロードしてください。ロードするソフトウェアを間違えると、これらの UNIX クライアント タイプを NetBackup クラス設定に追加できなくなります。

7. クライアントのプラットフォーム以外のプラットフォームで使用する Java ファイルを削除します。

HP700、HP800、Solaris の各サーバでは、NetBackup のインストールによって、`/usr/opensv/java` ディレクトリに以下のような大容量ファイルが作成されます。

- ◆ Solaris\_JRE\_117B.tar.Z
- ◆ Solaris\_X86\_JRE\_117B.tar.Z
- ◆ hp110\_jre116.tar.Z

これらのファイルは、以下の NetBackup クライアントにインストールする場合に必要です。また、これらのファイルは、以下のプラットフォームで NetBackup の Java インタフェースアプリケーションが使用します。

NetBackup の Java クライアント GUI は、以下のプラットフォームで動作します。

- ◆ SPARC : Solaris 2.6、7、8
- ◆ Intel x86 : Solaris 2.6、7、8
- ◆ HP9000-700 : HP-UX 11.0
- ◆ HP9000-800 : HP-UX 11.0

クライアントのプラットフォーム以外のプラットフォームで使用する以下の tar ファイルを削除します。

プラットフォーム/OS	tar ファイル
SPARC:Solaris	Solaris_JRE_117B.tar.Z
Intel x86:Solaris	Solaris_X86_JRE_117B.tar.Z
HP-UX 11.0	hp110_jre116.tar.z

8. HP システムのみ: CD-ROM をアンマウントするには、以下の手順に従います。

- ◆ `pfs_umount` コマンドを実行します。
- ◆ `kill` コマンドを使用して以下のプロセスを終了します。



```
pfs_mountd
pfsd
pfs_mountd.rpc
pfsd.rpc
```

## Java インタフェース用ウィンドウ マネージャの設定 (Solaris/HP)

ウィンドウ マネージャは、常にウィンドウ内でクリックしたときだけウィンドウがアクティブになるように設定します。オート フォーカスは有効にしません。オート フォーカスを有効にすると、マウス ポインタをウィンドウ上に移動しただけでウィンドウがアクティブになります。オート フォーカスが有効になっていると、**NetBackup** の **Java** インタフェースは正しく動作しません。フォーカスを正しく設定するための一般的な手順を以下に示します。

### CDE (Common Desktop Environment)

以下の手順では、**CDE (Common Desktop Environment)** ウィンドウ マネージャの設定方法について説明します。**CDE** ウィンドウ マネージャは、**NetBackup** の **Java** アプリケーションに推奨されているウィンドウ マネージャです。

1. **CDE** ウィンドウのフロント パネルで、[スタイル・マネージャ] コントロール アイコンをクリックします。  
[スタイル・マネージャ] ツールバーが表示されます。
2. [スタイル・マネージャ] ツールバーの [ウィンドウ] コントロール アイコンをクリックします。  
[スタイル・マネージャ - ウィンドウ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [スタイル・マネージャ - ウィンドウ] ダイアログ ボックスで、[クリックでウィンドウをアクティブに] ボタンをクリックします。
4. [了解] をクリックします。
5. **Workspace Manager** の再起動を求めるプロンプトが表示されたら、[了解] をクリックします。

### Motif

**Motif** ウィンドウ マネージャを使用する場合は、**X** リソースの **Mwm\*keyboardFocusPolicy** を以下のように設定します。

```
Mwm*keyboardFocusPolicy:explicit
```



## オペレーティング システムへのストレージ デバイスの設定

NetBackup の安定した使用には、ストレージ デバイスの適切な設定が大きく影響します。信頼性の高いバックアップとリストアを確保するためには、デバイスとオペレーティング システムのベンダが提供する指示書に従って、オペレーティング システムにデバイスを設定する必要があります。この設定は、NetBackup 自体を設定する前に行ってください。

---

**注** オペレーティング システムにデバイスを接続するには、『NetBackup Media Manager Device Configuration Guide』で、使用しているオペレーティング システムに該当する章を参照してください。『Device Configuration Guide』は、インストール CD に Acrobat の PDF 形式で収められています。

---

**注意** デバイスを正しく設定しないと、リストア時にデータが失われるおそれがあります。

---

1. 以下のコマンドを実行して、現在接続されているデバイスを確認します。

- ◆ Solaris の場合: `/usr/opensv/volmgr/bin/sgscan -v`
- ◆ HP の場合: `ioscan`

新しいデバイスを接続する場合は、上記のコマンドの出力によって、既存のデバイスで使用されている SCSI ID (ターゲット) を確認します。新しいデバイスには未使用の SCSI ID を使用します。未使用の ID とは、リストにない ID で、SCSI イニシエータによって使用されていない ID を指します。通常、SCSI イニシエータによって使用されるデフォルトの SCSI ID は 7 です。

使用するデバイスが接続済みである場合は、そのデバイスがオペレーティング システムによって認識されるかどうかを確認します。上記のコマンドの出力にデバイスが表示された場合は認識されています。

2. 新しいデバイスを接続する場合は、以下の手順に従います。

- a. ストレージ デバイスの操作マニュアルまたはフロント パネルで、SCSI ID (ターゲット) の設定方法を参照し、未使用の SCSI ID を設定します。
- b. その SCSI ID に対応するホスト バス アダプタにデバイスを物理的に接続します。「対応する」とは、デバイスとホスト バス アダプタの両方が同じタイプであることを意味します。Single-ended、High Voltage Differential、Low Voltage Differential、Fibre Channel などのタイプがあります。



3. Solaris システムのみ:

- a. テープドライブに対応するエントリを `st.conf` ファイルに追加する必要があります。`st.conf` ファイルのエントリとして必要な文字列については、『**NetBackup Media Manager Device Configuration Guide**』の **Solaris** に関する章を参照してください。
- b. `reboot -rv` コマンドを実行します。

4. HP システムのみ:

- ◆ 使用するデバイスをサポートしている **Hewlett Packard** のオペレーティング システムの最新のパッチを入手する必要があります。詳細については、**Hewlett Packard** 社の **Web** サイトを参照してください。

5. 以下のコマンドを実行してオペレーティング システムによってデバイスが認識されているかどうかを確認します。

- ◆ **Solaris** の場合: `sgscan -v`
- ◆ **HP** の場合: `ioscan`

デバイスが表示されない場合は、オペレーティング システムの設定 (**HP** の場合) またはパススルー ドライバの設定 (**Solaris** の場合) を変更するか、またはハードウェア接続をトラブルシューティングする必要があります。詳細については、『**NetBackup Media Manager Device Configuration Guide**』を参照してください。

---

## 初期設定ウィザードによるサーバの設定

初期設定ウィザードを使用すると、**NetBackup**を設定することができます。このウィザードでは、テスト バックアップを実行し、設定が正常に完了していることを確認することもできます。

---

**注** オペレーティング システムにストレージ デバイスが正しく設定されている必要があります。**NetBackup** が信頼できるレベルで機能するためには、デバイスが正しくインストールおよび設定されていなければなりません（「オペレーティング システムへのストレージ デバイスの設定」（17 ページ）を参照）。

---

## NetBackup 管理インターフェースの起動

---

**注** グラフィックス表示機能がないサーバを使用している場合や**HP-UX 11.0**サーバを別のコンピュータに接続されたコンソールから管理する場合は、別のコンピュータにグラフィカル インタフェースをインストールする必要があります。以下の**3**通りの方法があります。

- **Windows NT** または **Windows 2000** コンピュータでは、管理クライアント（「**NetBackup 管理クライアント**」（33 ページ）を参照）または **Java Display Console**（「**NetBackup-Java Display Console for Windows**」（34 ページ）を参照）をインストールします。

- **Windows 98** または **Windows 95** コンピュータでは、**Java Display Console**（「**NetBackup-Java Display Console for Windows**」（34 ページ）を参照）をインストールします。

- バックアップ ポリシーを設定した後で、**UNIX Java** グラフィカル インタフェースを **Solaris** または **HP** クライアントに送り、リモートから **NetBackup BusinessServer** を管理します（「**UNIX** トラスティング クライアントへの **NetBackup** ソフトウェアのインストール」（29 ページ）の手順 6 を参照）。

---



## UNIX システムでの NetBackup 管理インタフェースの起動

1. root ユーザとして NetBackup サーバにログオンします。

NetBackup サーバ以外のコンピュータでユーザ インタフェースを実行する場合は、UNIX コンピュータの root ユーザまたは Windows コンピュータの Windows 管理者としてそのコンピュータにログオンします。

2. 以下のコマンドを実行して NetBackup 管理を起動します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/jnbSA &
```

[ログイン]ダイアログ ボックスが表示されます。

コマンドの使い方を参照する場合は、次のように入力します。jnbSA -h



3. root ユーザのパスワードを入力します。
4. [ログイン]をクリックします。[ログイン]ダイアログ ボックスが閉じます。

## Windows システムでの NetBackup 管理インタフェースの起動

1. Windows NT/2000 の管理者として NetBackup サーバにログオンします。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。[プログラム] メニューの [VERITAS NetBackup] をポイントし、[NetBackup 管理] をクリックします。[NetBackup 管理] ウィンドウが表示されます。



## 初期設定ウィザード

NetBackup を設定する最も簡単な方法は、初期設定ウィザードを使用することです。このウィザードを起動するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで、[開始] メニューの [アシスタント] をクリックします。次に、[初期設定] をクリックします。「ようこそ」の画面で、[次へ] をクリックします。



初期設定ウィザードでは、以下の手順で NetBackup を設定できます。

### ◆1. ストレージ デバイスの設定

バックアップを実行する前に、NetBackup のストレージ デバイスを定義します。[次へ] をクリックし、表示される指示に従います。この手順については、「ストレージ デバイスの管理」(46 ページ) を参照してください。



## ◆2. ボリュームの設定

ストレージ デバイスを設定したら、次にボリュームを設定します。この手順では、各ロボットのインベントリを開始します。インベントリ中に新しいロボット メディアが見つかると、ボリューム データベースが自動的に更新されます。この手順では、スタンドアロンドライブで使用する新しいボリュームも定義します。この手順については、「ボリュームの管理」(53 ページ)を参照してください。

## ◆3. カタログ バックアップの設定

ボリュームを設定したら、次にカタログ バックアップを設定します。[初期設定]画面で[次へ]をクリックします。

NetBackup のカタログには、設定に関する情報とバックアップされたファイルおよびディレクトリに関する情報が記録されます。ディスクに障害が発生してカタログが失われた場合は、カタログのバックアップを使用してバックアップされたデータを簡単にリストアし、バックアップ スケジュールを再開することができます。したがって、データをバックアップする前にカタログ バックアップを設定する必要があります。この手順の詳細については、「カタログ バックアップの設定」(59 ページ)を参照してください。

## ◆4. バックアップ ポリシーの作成

カタログ バックアップを設定したら、次にバックアップ ポリシーを設定します。[初期設定]画面で[次へ]をクリックします。

この手順では、クライアントのグループに対してバックアップ クラスを定義します。つまり、バックアップする時期、ファイル、クライアントなどの一般的な属性を指定してバックアップ方法を定義します。この手順の詳細については、「バックアップ ポリシー (クラス) の設定」(62 ページ)を参照してください。

## ◆5. NetBackup の設定のテスト

最後に、設定をテストします。

初期設定ウィザードの終了後にテスト バックアップを行う場合は、デバイス モニタおよびアクティビティ モニタを使用してテスト バックアップの進行状況を監視します。この2つのユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理]ウィンドウで[デバイス モニタ]アイコンまたは[アクティビティ モニタ]アイコンをクリックします。



## デバイス モニタ

**注** ここでは、スタンドアロンドライブの場合について説明します。

---

デバイス モニタで実行するアクションは、ドライブにテープが入っているかどうか、および **NetBackup** のカタログ バックアップとレギュラー バックアップに必要なテープが設定済みであるかどうかによって異なります。

- ◆ テスト バックアップを開始する前に新しい未使用のテープをドライブに挿入した場合は、新しいメディア ID が自動的に作成され、このメディア ID がテープのヘッダに書き込まれ、バックアップが開始されます。作成されたメディア ID は、デバイス モニタの上部のペインにあるドライブの **[RVSN]** カラムに表示されます。新しいメディア ID は書き留めておきます。バックアップの終了後にテープの外側にラベルを貼り、そのラベルにメディア ID を記入します。このようにしておくこと、次回にテープを使用するときに簡単に見つけることができます。
- ◆ ドライブにテープが入っていないが、カタログ バックアップとレギュラー バックアップの両方に必要なテープが設定済みである場合は、デバイス モニタの下部のペインに、いずれかのテープに対する要求が表示されます。この場合は、以下の操作を行います。
  - a. 使用するテープの外側にラベルを貼り、そのラベルに **NetBackup** から要求されているメディア ID を記入します。
  - b. テープをドライブに挿入します。
  - c. デバイス モニタの下部のペインで、要求を選択します。
  - d. デバイス モニタの上部のペインで、ドライブを選択し、**[要求の割当て]** ボタンをクリックします。

要求が下部のペインから消え、その ID がドライブの **[要求 ID]** カラムに表示されます。次に、このメディア ID がテープのヘッダに書き込まれ、バックアップが開始されます。
- ◆ ドライブにテープが入っていないで、必要なテープの設定も行っていない場合は、テスト バックアップは開始されず、失敗します。この場合は、ボリュームの設定ウィザードを使用してテープを設定し、クラス、クライアント、またはスケジュールの手動バックアップを実行して **NetBackup** の設定をテストします。

## アクティビティ モニタ

アクティビティ モニタには、実行予定のスケジュールされた **NetBackup** ジョブが表示されます。アクティビティ モニタの画面が更新されると、テスト バックアップ ジョブがリストに表示されます。ジョブが実行されている間、進行状況を監視し、ジョブの完了を確認することができます。**[更新]** ボタンをクリックすると、いつでも画面が更新されます。ジョブの詳細を表示するには、ジョブをダブルクリックします。メイン ウィンドウに表示される内容より詳しい情報がステータス ウィンドウに表示されます。



## NetBackup クライアントのインストール

BusinessServer コンピュータ (NetBackup サーバ) は NetBackup クライアントとしても定義されます。NetBackup ソフトウェアをインストールすると、NetBackup サーバと NetBackup クライアントの両方のソフトウェアがサーバマシンにインストールされます。BusinessServer のリモート クライアントの最大数である 4 台 (Client Expansion Pack を使用した場合は 8 台) の中には、サーバは含まれません。

以下に NetBackup クライアント ソフトウェアをインストールするための簡単な手順を示します。PC クライアントへのソフトウェアのインストールと設定の詳細については、『NetBackup Installation Guide - PC Clients』を参照してください。

### Windows 95/98/2000/NT 4.0

---

注 Open Transaction Manager (OTM) は、BusinessServer の別売りのオプションです。クライアントのサーバが NetBackup BusinessServer である場合は、この機能のライセンス キーをサーバに登録してこの機能を有効にする必要があります。

---

CD-ROM から PC\_ClntrWin32Setup.exe を実行します。

### NetWare Target および Nontarget

---

注 Open Transaction Manager (OTM) は、BusinessServer の別売りのオプションです。クライアントのサーバが NetBackup BusinessServer である場合は、この機能のライセンス キーをサーバに登録してこの機能を有効にする必要があります。

---

#### OTM for NetWare のインストール

##### NetWare 3.x および 4.x :

1. OTMSK.DSK をサーバの DOS パーティションにコピーします。
2. サーバの DOS パーティションにある STARTUP.NCF を変更して、ほかの DSK ドライバがロードされる前に OTMSK.DSK がロードされるようにします。
3. NetWare ファイル サーバをリブートします。

##### NetWare 3.x、4.x、および 5.x :

CD-ROM の PC\_ClntrNetWareNLM ディレクトリから、OTMSK.NLM、OTMLAPI.NLM、OTMLOAD.NLM、および PMTHREAD.NLM を NetWare ファイル サーバにコピーします。



## NetBackup のインストール

**注** NDS (NetWare Directory Services) ファイルのバックアップとリストアを行うために `tsands.nlm` をインストールする必要があります。

バージョンに対応した NLM もインストールする必要があります。NLM は、`tsaxxx.nlm` という形式を持ち、NetWare サーバのリリース レベルに応じて Novell から提供されます。たとえば、Netware 5.0 サーバに対応する NLM は `tsa500.nlm` です。

---

1. CD-ROM の `PC_Clnet\NetWare\NLM` ディレクトリから、`BP.NLM`、`BPSRV.NLM`、`BPSMS.HLP`、および `BPCD.NLM` をファイル サーバの `SYS:system` ディレクトリにコピーします。
2. `SYS:` ボリュームに、以下のディレクトリを作成します。
  - ◆ NetWare Target の場合
    - `Openv\%netback%\logs`
    - `Openv\%netback%\logs\altpath`
    - `Openv\%netback%\logs\bpback`
    - `Openv\%netback%\logs\bp prest`
    - `Openv\%netback%\logs\bp cd` (オプション)
    - `Openv\%netback%\tgt s`
  - ◆ NetWare NonTarget の場合
    - `Openv\%netback%\logs`
    - `Openv\%netback%\logs\altpath`
    - `Openv\%netback%\logs\bpsrv` (オプション)
    - `Openv\%netback%\logs\bp cd` (オプション)
3. NonTarget クライアントの場合は、CD-ROM から `PC_Clnet\NetWare\Win32\Setup.exe` ファイルを実行します。
4. ホスト ファイルを変更して、NetBackup サーバとその IP アドレスを含めます。

## Macintosh

Macintosh のインストール手順については、『NetBackup Installation Guide - PC Clients』を参照してください。



## OS/2 Warp

1. PC\_Clnnt¥OS2¥nbuos2.exe を OS/2 Warp コンピュータの一時ディレクトリにコピーします。
2. 一時ディレクトリから nbuos2.exe を実行してインストールファイルを抽出します。
3. 一時ディレクトリから install.exe を実行して NetBackup for OS/2 をインストールします。

## UNIX

UNIX クライアントを使用するには、まず、その UNIX コンピュータに適合するタイプのソフトウェアを UNIX サーバにロードする必要があります。UNIX サーバのインストール時にソフトウェアのロードを実行しなかった場合は、「サーバの初期インストール後の UNIX クライアントタイプの追加」(32 ページ)の説明に従ってソフトウェアをロードします。

UNIX クライアントは、2通りの方法でインストールできます。クライアントコンピュータでローカルにインストールするか、またはリモートで UNIX NetBackup からインストールします。

- ◆ ローカルインストール: リモートインストールを実行できない場合は、クライアントソフトウェアをローカルでインストールする必要があります。NetBackup サーバが NT/2000 コンピュータである場合、またはリモートインストールを阻止するファイアウォールが存在する場合は、リモートインストールを実行できません。
- ◆ リモートインストール: クライアントソフトウェアを UNIX NetBackup サーバから UNIX クライアントコンピュータに「送る」ことができます。

---

**注** Windows NT/2000 コンピュータ上で NetBackup を実行している場合、またはリモートインストールを阻止するファイアウォールが存在する場合は、UNIX クライアントをローカルにインストールする必要があります。

---

---

**注** NetBackup Java のインストールと配布は、HP または Solaris の NetBackup マスタサーバから HP および Solaris の NetBackup クライアントに対してしか行うことができません。NetBackup Java を HP および Solaris の NetBackup クライアントにインストールするには、クライアントソフトウェアをローカルでインストールする必要があります。

---

UNIX クライアント コンピュータからバックアップまたはリストアを開始するには、UNIX クライアントで以下のグラフィカル インタフェースを使用します。

- ◆ Solaris および HP クライアントのみ: NetBackup の Java インタフェース (jbpSA)。jbpSA の起動手順については、「インタフェースの起動方法」(87 ページ)を参照してください。
- ◆ すべての UNIX クライアント : xbp インタフェース。xbp の使い方については、『NetBackup User's Guide - UNIX』を参照してください。



### クライアント ソフトウェアのローカル インストール

1. NetBackup CD-ROMをクライアント コンピュータのドライブに挿入します。

(HPシステムのみ) NetBackup CD-ROMは Rockridge フォーマットであるため、以下のコマンドを入力してマウントする必要があります。

```
nohup pfs_mountd &
nohup pfsd &
pfs_mount -o xlat=unix /dev/dsk/device-ID /cdrom
```

*device\_ID*は、CD-ROMドライブのIDです。

2. 作業ディレクトリを以下のCD-ROMディレクトリに変更します。

```
cd cd_rom_directory
```

*cd\_rom\_directory*は、CD-ROMにアクセスできるディレクトリのパスです。プラットフォームによっては、ディレクトリをマウントする必要があります。

3. インストールプログラムを起動します。

```
./install
```

4. オプション2の [NetBackup Client Software] を選択します。

5. プロンプトに従ってインストールを完了させます。

6. HPシステムのみ:CD-ROMをアンマウントするには、以下の手順に従います。

- ◆ pfs\_umount コマンドを実行します。
- ◆ kill コマンドを使用して、以下のプロセスを終了します。

```
pfs_mountd
pfsd
pfs_mountd.rpc
pfsd.rpc
```

### クライアント ソフトウェアのリモート インストール

以下の節では、クライアント ソフトウェアを UNIX NetBackupサーバから UNIX NetBackupクライアントに「送る」方法について説明します。クライアント ソフトウェアは、トラスティングクライアントとセキュリティクライアントのいずれかに送ることができます。



## UNIX トラスティング クライアントへの NetBackup ソフトウェアのインストール

トラスティング クライアントは、`.rhosts` ファイルにサーバのエントリがあるクライアントです。`.rhosts` エントリによってソフトウェアのインストールが可能になりますが、NetBackup ソフトウェアの正常な運用には必要ありません。

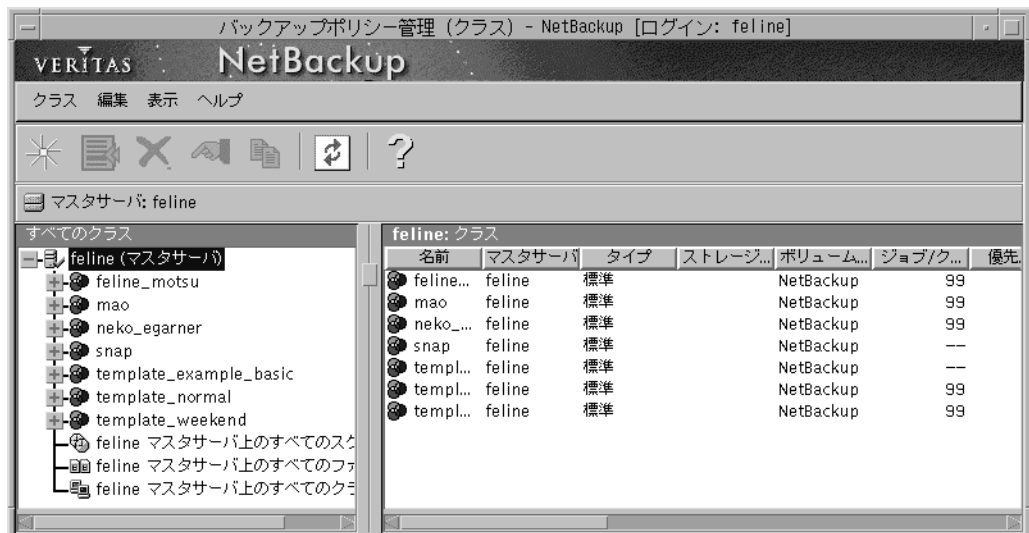
**注** トラスティング クライアントをバックアップ ポリシー (クラス) にまだ追加していない場合は、追加します。「クライアント リストの変更」 (74 ページ) を参照してください。

1. NetBackup 管理インタフェースを起動します。

[ログイン] ダイアログ ボックスで、クライアントのクラス設定がある NetBackup サーバの名前を入力します。

クライアント ソフトウェアのインストールは、インタフェースの起動時に [ログイン] ダイアログ ボックスで指定した NetBackup サーバからのみ実行できます。クライアントは、この NetBackup サーバのクラスに定義されている必要があります。

2. [NetBackup 管理] ウィンドウで、[バックアップ ポリシー管理] アイコンをクリックします。
3. 左側のペインでサーバを選択します。



4. [編集] メニューの [UNIX クライアントソフトウェアのインストール] をクリックします。  
[UNIX クライアントソフトウェアのインストール] ダイアログ ボックスが表示されます。



5. [インストールしないクライアント] ボックスからインストールするクライアントを選択し、右矢印をクリックします。

選択したクライアントは、[インストールするクライアント] ボックスに移動します。

6. [クライアントソフトウェアのインストール] ボタンをクリックしてインストールを開始します。

クライアント ソフトウェアのインストールには、クライアントごとに1分以上かかります。インストールの進行に伴って、[進行状況] ボックスにメッセージが書き込まれます。クライアントへのインストールに失敗すると、そのことが通知されますが、クライアントはクラス内に保持されたままになります。いったんインストールが開始されると、停止することはできません。

インストール時に NetBackup は以下を実行します。

- ◆ クライアント ソフトウェアをサーバの /usr/opensv/netbackup/client ディレクトリからクライアントの /usr/opensv/netbackup ディレクトリにコピーします。





- ◆ クライアントの `/etc/services` ファイルと `inetd.conf` ファイルに必要なエントリを追加します。

クライアント ソフトウェアをクライアントの別の場所にインストールするには、ソフトウェアをインストールする場所にディレクトリを作成し、ソフトウェアをインストールする前に、そのディレクトリへのリンクとして `/usr/opensv/netbackup` を作成しておきます。

7. インストールが完了したら、[閉じる]をクリックします。

### UNIX セキュリティ クライアントへの NetBackup ソフトウェアのインストール

セキュリティクライアントは、`/.rhosts` ファイルに NetBackup サーバのエントリがないクライアントを指します。

**注** セキュリティクライアントをバックアップポリシー（クラス）にまだ追加していない場合は追加します。「クライアント リストの変更」（74 ページ）を参照してください。

1. NetBackup サーバから `install_client_files` スクリプトを実行して、クライアントソフトウェアをサーバからクライアントの `/tmp` ディレクトリの一時的な領域に移動します。このスクリプトを実行するには、`ftp` を介してクライアントにアクセスするためのログイン ID とパスワードが必要です。

ソフトウェアを一度に 1 つのクライアントだけに移動するには、以下のように実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ftp client user
```

ソフトウェアを一度にすべてのクライアントに移動するには、以下のように実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/install_client_files ftp ALL user
```

オプションの定義は以下の通りです。

- ◆ `client` は、クライアントのホスト名です。
- ◆ `user` は、クライアントの `ftp` で必要なログイン ID です。
- ◆ `ALL` を指定すると、サーバのいずれかのバックアップポリシー（クラス）に設定されたすべてのクライアントにインストールされます。

`.netrc` ファイルを設定していない場合は、`install_client_files` スクリプトによって各クライアントのパスワードの入力を要求するプロンプトが表示されます。

2. `install_client_files` スクリプトが終了したら、各クライアントの `root` ユーザは、以下のように `client_config` スクリプトを実行してインストールを完了させます。

```
sh /tmp/bp/bin/client_config
```

`client_config` スクリプトは、バイナリをインストールし、クライアントの `/etc/services` ファイルと `inetd.conf` ファイルを更新します。



### サーバの初期インストール後の UNIX クライアント タイプの追加

新しい UNIX クライアント タイプをバックアップ環境に追加する場合または NetBackup のインストール時に UNIX クライアントのプラットフォームを選択しなかった場合は、まず以下に示すように、NetBackup クライアント ソフトウェアを NetBackup サーバにロードする必要があります。

1. NetBackup CD-ROM をサーバのドライブに挿入します。

2. 作業ディレクトリを以下の CD-ROM ディレクトリに変更します。

```
cd cd_rom_directory
```

*cd\_rom\_directory* は、CD-ROM にアクセスできるディレクトリのパスです。プラットフォームによっては、ディレクトリをマウントする必要があります。

3. インストールプログラムを使用して、クライアント ソフトウェアを NetBackup サーバにロードします。

```
./install
```

4. オプション 2 の [NetBackup Client Software] を選択します。
5. プロンプトに従って、追加するクライアントのプラットフォームを選択します。
6. この章ですでに説明したように、この時点で NetBackup クライアント ソフトウェアをこれらの追加したクライアント コンピュータにインストールする必要があります。

## 別の管理インタフェースのインストール

NetBackup ユーザ インタフェースは、別のコンピュータにインストールできます。たとえば、サーバ コンピュータにグラフィックス表示機能がない場合は、ユーザ インタフェースを別のコンピュータにインストールする必要があります。

システム	インストールするユーザ インタフェース
UNIX	UNIX NetBackup クライアント。インストール後にウィンドウ マネージャを設定します。
Windows NT/2000	管理クライアントまたは Java Display Console
Windows 98 または Windows 95	Java Display Console

### NetBackup 管理クライアント

NetBackup 管理クライアントは、Windows NT/2000 用の NetBackup クライアントのバージョンです。これを使用すると、1 台以上の UNIX または Windows NT/2000 NetBackup BusinessServer コンピュータをリモートから管理できます。Windows NT/2000 NetBackup クライアントから NetBackup BusinessServer をリモートに管理する必要がない場合は、この節を飛ばしてもかまいません。

NetBackup 管理クライアントを使用する前に、管理クライアントを実行するホストを管理対象のリモート BusinessServer コンピュータのサーバリストに追加する必要があります。リストへの追加は、管理クライアントをインストールする前に行うことをお勧めします。

1. 管理クライアントのホストをリモート BusinessServer コンピュータのサーバリストに追加するには、以下の手順に従います。
  - a. リモート BusinessServer コンピュータに移動します。
  - b. /usr/opensv/netbackup/bp.conf ファイルの SERVER = 行の末尾に次の行を追加します。
 

```
SERVER = name-of-Administration-Client-machine
```
2. 管理クライアントのインストール先のコンピュータに移動します。
3. NetBackup サーバソフトウェアが入っている CD-ROM をドライブに挿入します。
  - ◆ CD-ROM ドライブの AutoPlay が有効になっている Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、NetBackup インストールプログラムが自動的に起動します。
  - ◆ AutoPlay が無効になっている Windows NT 4.0/2000 システムの場合は、CD-ROM の AutoRun ディレクトリにある AutoRunI.exe プログラムを実行します。



4. [NetBackup - インストール]画面で、[NetBackup サーバー]の下にある[インストール]オプションをクリックします。  
[ようこそ]画面で[次へ]をクリックすると、[サーバー設定タイプ]画面に、[マスター サーバー]と[管理クライアント]の2つのインストール オプションが表示されます。
5. [管理クライアント]をクリックします。
6. プロンプトに従ってインストールを完了させます。

---

**注** [システム名]画面では、管理クライアントの名前が最初のエン트리 フィールドに表示されます。リモートのNetBackup BusinessServer コンピュータの名前は、[マスター サーバー]フィールドに入力します。

---

ソフトウェアがインストールされる時、NetBackupのマニュアル一式も以下のディレクトリにインストールされます。

`install_path¥Help`

デフォルトでは、`install_path`はC:¥Program Files¥VERITASになります。

デフォルトでは、インストールプログラムの[完了]をクリックすると、管理クライアント インタフェースが直ちに起動します。デフォルトの設定を選択しなかった場合は、管理クライアント コンピュータでWindowsの[スタート]メニューの[プログラム]、[VERITAS NetBackup]、[NetBackup 管理]を選択します。

## NetBackup-Java Display Console for Windows

NetBackup-Java Display Consoleを使用すると、Windows NT、2000、98、または95システムのNetBackup Java (UNIX) インタフェースを実行してUNIX NetBackup BusinessServerマシンをリモートから管理できるようになります。Windows NT、2000、98、または95上にあるJava インタフェースを使用してUNIX NetBackup BusinessServerをリモートから管理する必要がない場合は、この節を飛ばしてもかまいません。

### システム要件

NetBackup-Java Display Consoleを実行するコンピュータには、256MBの物理メモリを用意することをお勧めします。



### インストール手順

1. インストールを実行するシステムに、NetBackup サーバ ソフトウェアが入っている CD-ROM を挿入します。
  - ◆ CD-ROM ドライブの **AutoPlay** が有効になっている **Windows NT 4.0/2000** システムの場合は、NetBackup インストールプログラムが自動的に起動します。
  - ◆ **AutoPlay** が無効になっている **Windows NT 4.0/2000** システムの場合は、CD-ROM の **AutoRun** ディレクトリにある **AutoRunI.exe** プログラムを実行します。
2. [NetBackup - インストール] 画面で、[NetBackup - Java Display Console for MS] の下にある [インストール] オプションをクリックします。[ようこそ] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [次へ] をクリックし、プロンプトに従ってインストールを完了させます。
4. ソフトウェアをインストールしたら、ディスプレイ コンソールの使い方について、以下のドキュメントを参照してください（このドキュメントはソフトウェアとともにインストールされます）。

`install_path¥Java¥Readme.txt`

デフォルトでは、`install_path` は `C:¥Program Files¥VERITAS` になります。

## NetBackupのエージェントとオプションのインストール

初期インストールが完了したら、製品に付属している NetBackup ガイドの指示に従って、NetBackup のほかのエージェントとオプション（NetBackup for Oracle など）をインストールできます。





## アップグレード インストールの実行

## 3

この章では、UNIXサーバをNetBackup 3.4にアップグレードする方法について説明します。

### システム要件

---

**注意** サーバでNetBackup ソフトウェアをアップグレードする前にNetBackup データベースをバックアップします。

---

一般に、各サーバのNetBackupのリリースレベルは、少なくともクライアントのリリースレベルと等しくする必要があります。サーバソフトウェアのバージョンがクライアントより古い場合は、問題が発生するおそれがあります。まず、各サーバが同じレベルになるように、すべてのサーバをアップグレードしてください。

### NetBackup 3.4を再インストールできるようにするには

アップグレード後にNetBackup 3.4を再インストールできるようにするには、以下の手順に従います。

1. サーバのすべてのデータベース（メディア、ボリューム、設定、およびデバイス）をバックアップします。
2. NetBackup 3.4固有のすべてのパッチ、スクリプト、およびbp.conf エントリをバックアップします。
3. この時点ではクライアントをアップグレードする必要はありません。サーバだけをアップグレードします。

NetBackup 3.4でサポートされていないNetBackup 3.3のクライアントを使用していて、3.4の新しい機能との間に問題が発生した場合は、3.3のクライアントを別のクラスに移動します。



## サーバおよびクライアントへのソフトウェアのインストール

### インストール前

1. **NetBackup** と **Media Manager** のデーモンを以下のように終了します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/goodies/bp.kill_all
```

2. **Solaris** および **HP** の場合は、**NetBackup Java** インタフェース アプリケーションのすべてのインスタンスを終了します。**NetBackup Java** アプリケーションのプロセス ID を確認するには、**ps** の出力をパイプで **grep** に渡します。

**Solaris** での例を示します。

**NetBackup 3.3** からアップグレードする場合は、まず **NetBackup Java** クライアント アプリケーションを起動した **Web** ブラウザのすべてのインスタンスを終了してから、以下のように指定します。

```
ps -ef | grep "java jbpMServer" | grep opensv
```

次に、**kill** コマンドを使用してプロセスを終了します。

3. **Solaris** では、**NetBackup 3.4** へのアップグレードまたは **NetBackup 3.4** の再インストールの場合は、現在の **SUN** パッケージを削除します。

---

**注意** これにより、変更したすべての **NetBackup** スクリプトが削除されます。「アップグレード後」(40 ページ) の手順 2 を参照してください。

---

```
pkgrm SUNWnetbp SUNWmmgr
```

以下のメッセージが表示されます。

```
Are you doing this pkgrm as a step in an upgrade process?
```

「y」と答えます。

### 手順

**root** ユーザーとして、サーバに **NetBackup** サーバ ソフトウェアをインストールします。各サーバの手順は以下の通りです。

1. **root** ユーザーとしてサーバにログインします。
2. **CD-ROM** をドライブに挿入します。
3. 作業ディレクトリを以下の **CD-ROM** ディレクトリに変更します。

```
cd cd_rom_directory
```





`cd_rom_directory`は、CD-ROMにアクセスできるディレクトリのパスです。プラットフォームによっては、ディレクトリをマウントする必要があります。

4. 以下のインストール スクリプトを実行します。

```
./install
```

5. メニューが表示されたら、オプション **1 (NetBackup)** を選択します。このオプションを選択すると、サーバに **Media Manager** と **NetBackup** ソフトウェアの両方がインストールされます。

オプション **2 (NetBackup Client Software)** は、UNIX クライアントにローカル インストールを行う場合（「クライアント ソフトウェアのローカル インストール」 (28 ページ) を参照）や **NetBackup** と **Media Manager** に影響を与えないでクライアント ソフトウェアを再インストールする場合に選択します。

6. インストール スクリプトのプロンプトに従います。

インストール スクリプトは、クライアント ソフトウェアを最大で **4 台 (Client Expansion Pack)** を使用した場合は **8 台** のクライアントに同時に送ることができます。

**注:** Solaris では、`pkgm` を実行しても、**NetBackup** クライアントの更新を要求するプロンプトは表示されません。インストール後のクライアントのアップグレードについては、手順 7 を参照してください。

7. インストール スクリプトの実行時に現在設定されているすべての UNIX クライアント システムの **NetBackup** クライアント ソフトウェアを更新しなかった場合は、ここで **NetBackup** サーバの **root** ユーザーとしてログインし、以下の手順に従って更新します。

- a. 以下のコマンドを実行し、`bprd` が実行中であるかどうかを確認します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bpps
```

- b. `bpps` 出力に `bprd` が 1 つしか表示されない場合は、アクティブなバックアップまたはリストアはありません。以下のコマンドを実行すると、`bprd` のデーモンを終了することができます。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/admincmd/bprdreq -terminate
```

- c. `update_clients` スクリプトを実行して UNIX クライアント ソフトウェアを更新します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/update_clients
```

8. サーバとクライアントの更新が終了したら、以下のコマンドを入力してサーバの **root** ユーザーとして **NetBackup** と **Media Manager** のデーモンを起動します。

```
/usr/opensv/volmgr/bin/ltid  
/usr/opensv/netbackup/bin/initbprd
```



この時点で、UNIXサーバとUNIXクライアントの更新は完了します。

## アップグレード後

1. アップグレード後のクライアントで、**NetBackup for Oracle**などの別売りのオプションをアップグレードします。別売りのオプションは、**NetBackup**クライアントと同じレベルでなければなりません。
2. アップグレード前に**NetBackup**のスクリプトを変更している場合は、その変更を新しいスクリプトに適用します。ソフトウェアをインストールすると、以下のファイルおよびディレクトリが上書きされます。上書きされる前に、これらのファイルおよびディレクトリは古いバージョンが付加された名前で保存されます。

- ◆ /usr/opensv/netbackup/bin/goodiesディレクトリと  
/usr/opensv/netbackup/helpディレクトリにあるすべてのファイル
- ◆ /usr/opensv/volmgrにあるファイルとディレクトリの一部
- ◆ /usr/opensv/netbackup/binディレクトリにある以下のスクリプト
  - ◆ backup\_notify
  - ◆ backup\_exit\_notify
  - ◆ bpend\_notify (使用されている場合のみ)
  - ◆ bpend\_notify\_busy (使用されている場合のみ)
  - ◆ bpps
  - ◆ bpstart\_notify (使用されている場合のみ)
  - ◆ dbbackup\_notify
  - ◆ diskfull\_notify
  - ◆ initbpdm
  - ◆ initbprd
  - ◆ restore\_notify
  - ◆ session\_notify
  - ◆ session\_start\_notify
  - ◆ userreq\_notify

たとえば、**NetBackup 3.3**から**3.4**にアップグレードすると、以下のように変更されます。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/goodies
から
/usr/opensv/netbackup/bin/goodies.3.3GA
および
/usr/opensv/netbackup/bin/initbprd
から
```



---

```
/usr/opensv/netbackup/bin/initbprd.3.3GA
```

3. サーバのアップグレード インストールの場合は、以前そのサイトで **root** 以外のユーザに **NetBackup** の管理を許可していた場合でも、新しくインストールされたファイルのデフォルトのアクセス権とグループの下では、**root** ユーザしか **NetBackup** の管理を実行できません。**root** 以外の管理者の機能を復元する方法については、『**NetBackup System Administrator's Guide - UNIX**』の第2章を参照してください。
4. **NetBackup** の **Java** インタフェースを使用する場合は、『**NetBackup Release Notes**』で設定情報を参照してください。操作方法については、オンライン ヘルプを参照してください。

---

注 HP700、HP800、および **Solaris** の各サーバでは、**NetBackup** のインストールによって `/usr/opensv/java` ディレクトリに以下のような大容量ファイルが作成されます。  
`Solaris_JRE_117B.tar.Z`、`Solaris_X86_JRE_117B.tar.Z`、および `hp110_jre116.tar.Z`。これらのファイルは、**Solaris 2.6、7、8、Solaris x86 2.6/7/8、HP 11.0** などの **NetBackup** クライアントにインストールするために必要であり、これらのプラットフォームの **NetBackup** の **Java** グラフィカル ユーザ インタフェース アプリケーションによって使用されます。このようなハードウェアとオペレーティング システムの組み合わせの **NetBackup** クライアントがない場合は、これらの `tar` ファイルを削除してください。

---





ここでは、NetBackup BusinessServer の設定の詳細と、NetBackup の日常的なタスクの実行方法について説明します。

- ◆ NetBackup アシスタント
- ◆ ストレージ デバイスの管理
- ◆ ボリュームの管理
- ◆ メディア (テープ) の管理
- ◆ カタログ バックアップの設定
- ◆ バックアップ ポリシー (クラス) の設定
- ◆ NetBackup 設定のテスト
- ◆ 自動電子メール通知の設定
- ◆ レポートの生成
- ◆ 別のクライアントへのリストアを許可するためのサーバの設定
- ◆ NetBackup クライアント インタフェースの使い方



## NetBackup アシスタント

NetBackup アシスタントを使用すると、ウィザードを簡単に起動できます。ウィザードでは、初期設定を行うことができます。

[起動時にアシスタントを常に表示] チェックボックスをクリアしない限り、NetBackup 管理インタフェースを起動するたびに NetBackup アシスタントが表示されます（「NetBackup 管理インタフェースの起動」（19 ページ）を参照）。



[NetBackup 管理] ウィンドウで [開始] メニューの [アシスタント] コマンドをクリックして NetBackup アシスタントを起動することもできます。



## ストレージ デバイスの管理

ここでは、NetBackup にストレージ デバイスを設定する方法について説明します。

---

**注意** オペレーティング システムにストレージ デバイスが正しく設定されている必要があります。NetBackup BusinessServer が信頼できるレベルで動作するためには、オペレーティング システムにデバイスが正しくインストールおよび設定されていなければなりません（「オペレーティング システムへのストレージ デバイスの設定」（17 ページ）を参照）。

---

NetBackup DataCenter ではメディア サーバと呼ばれるリモート NetBackup サーバに接続されたテープドライブを利用できます。NetBackup BusinessServer ではリモート メディア サーバを使用できません。BusinessServer システムでデバイスを設定する場合は、以下のすべての用語が NetBackup サーバ コンピュータを指すことに注意してください。

- ◆ マスタ サーバ
- ◆ メディア サーバ
- ◆ Media Manager ホスト
- ◆ ボリューム データベース ホスト
- ◆ デバイス ホスト
- ◆ ロボット制御ホスト


### デバイスの管理

ここでは、NetBackup にデバイスを設定する方法について説明します。

#### デバイスの設定ウィザード

このウィザードを使用すると、バックアップに必要なデバイスを設定できます。

デバイスの設定ウィザードは、初期設定ウィザードまたは NetBackup アシスタントから起動できます。

デバイスの設定ウィザードは、[メディアとデバイス管理] ウィンドウから起動することもできます。 ボタンをクリックするか、または [アクション] メニューの [デバイスの設定ウィザード] をクリックしてください。

#### 新しいデバイスの追加

1. 使用するデバイスが、サポートされているデバイスのリストに掲載されていることを確認します（『NetBackup Release Notes』を参照）。



**注** **BusinessServer** で使用できるドライブは最大 **2** 台までです。ドライブを追加する必要がある場合は、**NetBackup** の **DataCenter** バージョンにアップグレードすると、**2** 台以上のドライブおよびハイエンド ストレージ デバイスを使用できます。

2. デバイスがオペレーティング システムに正しく設定されていることを確認します（「オペレーティング システムへのストレージ デバイスの設定」（17 ページ）を参照）。
3. デバイス設定ウィザードを起動します。ウィザードの 3 ページ目で、ソフトウェアによって検出されたデバイスのリストが表示されます。

シリアル化されていないデバイス。デバイスのシリアル化は、ウィザードがデバイスのシリアル番号を識別し、その番号をロボティック ライブラリから返されるシリアル番号の情報と関連させるためのファームウェア機能です。ドライブのシリアル番号を識別できない場合またはロボティック ライブラリからドライブのシリアル番号が返されない場合は、ウィザードでデバイスを自動的に設定することはできません。

シリアル化されていないデバイスについて参照する場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。この問題を解決する方法は、「デバイスのシリアル化トラブルシューティング」というトピックで説明されています。

### デバイスの削除

1. デバイスからメディアを取り外し、デバイスの接続を物理的に解除します。
2. [ストレージ ユニット管理]ユーティリティを使用して、デバイスのストレージ ユニートを削除します。
3. デバイスの設定ウィザードを実行します。このウィザードによって変更が認識され、設定からデバイスが削除されます。[メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用して、デバイスを手動で削除することもできます。

### [メディアとデバイス管理]ユーティリティ

[メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- ◆ ドライブ、ロボティック ライブラリ、ボリューム、ボリューム プール、ボリューム グループなどの追加、変更、削除。ドライブとライブラリを追加する場合は、ウィザードを使用する方が簡単です。
- ◆ ロボティック ライブラリのテープのインベントリ。
- ◆ ロボティック ライブラリのバーコード ルールの定義。

このユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [メディアとデバイス管理] アイコンをクリックします。[メディアとデバイス管理] ウィンドウが表示されます。



このユーティリティの詳細については、『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administrator's Guide - UNIX』を参照してください。

---

**注** バックアップに使用する各ストレージ デバイスには、対応するストレージ ユニットが必要です。[アクション]メニューの[新規]オプションを使用してデバイスを手動で追加する場合は、対応するストレージ ユニットも手動で追加します。デバイスの設定ウィザードを使用してデバイスを追加する場合は、ストレージ ユニットが自動的に作成されます。同様に、デバイスを削除する場合は、対応するストレージ ユニットの削除するか、またはそのユニット内の使用可能なドライブ数を減らします。詳細については、「ストレージ ユニットの管理」を参照してください。

---

## ストレージ ユニットの管理

「ストレージ ユニット」(5 ページ) で説明したように、ストレージ ユニットは、バックアップ データが保存されるストレージ デバイスのコレクションです。たとえば、ストレージ ユニットは、1 台のロボットと最大 2 台のドライブまたは 2 台のスタンドアロン テープ ドライブで構成されま。スタンドアロン ドライブは、ロボットに含まれない単独のドライブです。

バックアップに使用する各ストレージ デバイスは、特定のストレージ ユニットに属する必要があります。

### [ストレージ ユニット管理]ユーティリティ

このユーティリティを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- ◆ 接続されているストレージ デバイスに対応するストレージ ユニットの追加
- ◆ ディスク ストレージ ユニットの追加
- ◆ ストレージ ユニットの削除
- ◆ マルチプレキシングの設定やドライブ数の変更など、ストレージ ユニットの属性の変更

このユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [ストレージ ユニット管理] アイコンをクリックします。[ストレージ ユニット管理] ウィンドウが表示されます。



#### 接続されているデバイスに対応するストレージ ユニットの追加

デバイスの設定ウィザードを使用してストレージ デバイスを追加した場合は、対応するストレージ ユニットが自動的に作成されます。[メディアとデバイス管理] ユーティリティを使用してストレージ デバイスを追加した場合は、[ストレージ ユニット管理] ユーティリティを使用してデバイスに対応するストレージ ユニットの追加が必要です。

#### ディスク ストレージ ユニットの追加

ディスク ストレージ ユニットを作成するには、[ストレージ ユニット管理] ユーティリティを使用します。作成するストレージ ユニットに対してディレクトリを指定する必要があります。このディレクトリに、作成したストレージ ユニットを使用するバックアップのバックアップ データが保存されます。

**注** 通常、ディスク ストレージ ユニットはテスト目的だけに使用されます。バックアップでディスクがすぐに一杯になることがあるためです。ディスク ストレージ ユニットに対しては、ディスクが一杯にならないようなバックアップ クラスを割り当てます。

ディスク ストレージ ユニットに対しては、「オンデマンドのみ」機能を使用することをお勧めします。この機能を使用すると、ストレージ ユニットに送られるバックアップを指定し、ディスクに送られるデータの量を制御することができます。

### ストレージ ユニットの属性

各属性について以下に説明します。

- ◆ オンデマンドのみ：クラスまたはスケジュールから明示的に要求されたときだけにストレージユニットが使用可能になります。すべてのクラスまたはスケジュールに対してユニットを使用可能にするには、このチェックボックスをクリアします。すべてのストレージユニットを【オンデマンドのみ】に設定した場合は、設定するクラスまたはスケジュールごとにストレージユニットを指定する必要があります。
  - ◆ バックアップ用の最大平行ドライブ数：バックアップに使用されるストレージユニット内のドライブ数を指定できます。
    - ◆ ストレージユニット内のスタンドアロン テープ ドライブの数を入力します。同一のストレージユニットに属するすべてのテープドライブは、同じタイプ（TL8やDLTなど）でなければなりません。
- または
- ◆ ストレージユニット内のロボットにインストールされ、NetBackup サーバに接続されているテープドライブの数を入力します。

NetBackup BusinessServer は、最大 2 台のドライブをサポートしています。たとえば、2 台のドライブがインストールされたロボット、または 1 台のスタンドアロンドライブと 1 台のドライブがインストールされたロボットを使用できます。

同じタイプに属する 2 台のスタンドアロンドライブがあるときに、このボックスに「1」を指定したと仮定します。この場合は、どちらのドライブも NetBackup で使用できますが、バックアップに使用できるドライブは 1 台だけです。もう一方のドライブは、リストアやバックアップ以外の操作（バックアップのインポート、確認、複製など）に使用します。

- ◆ ドライブごとの最大マルチプレックス回数：NetBackup からストレージユニット内の単一のドライブに送られるバックアップの最大数を指定できます。NetBackup BusinessServer に対しては、1～8 の値を指定します。デフォルトの 1 を指定すると、マルチプレキシングが無効になり、各ドライブに一度に送ることができるバックアップ ジョブは 1 つだけになります。1 以外の値を指定すると、1 台以上のクライアントから複数のバックアップが一度に単一のドライブに送られ、バックアップはメディア上でマルチプレックス（インタリーブ）されます。マルチプレキシングの詳細については、『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX』を参照してください。

[ストレージユニットの追加/変更]ダイアログボックスに表示されるストレージユニットのほかの属性については、オンライン ヘルプのトピックを参照してください。



### バックアップ ポリシーへのストレージ ユニットの割り当て

最初にバックアップ ポリシーを作成するときは、[オンデマンドのみ]に設定されていない使用可能なストレージ ユニットが使用されます。「ストレージ ユニットの属性」(50 ページ)を参照してください。バックアップ ポリシーによってバックアップ データに使用するストレージ ユニットの指定するには、[バックアップ ポリシー管理]ユーティリティを使用します。[属性の変更]ダイアログ ボックスで、[クラス ストレージ ユニット]フィールドに指定するストレージ ユニット名を入力します。

クラス内のスケジュールごとに特定のストレージ ユニットの指定することもできます。スケジュールに対してストレージ ユニットの指定すると、その指定は[属性の変更]ダイアログ ボックスの[クラス ストレージ ユニット]フィールドの設定より優先されます。たとえば、すべてのフルバックアップとインクリメンタルバックアップを1つのストレージ ユニットに送り、すべてのユーザ バックアップを別のストレージ ユニットに送ることができます。

### デバイスの監視

[デバイス モニタ]ユーティリティを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- ◆ テープドライブのステータスの表示
- ◆ テープドライブのステータスの変更
- ◆ バックアップまたはリストアを開始するためのドライブへのテープ割り当て

たとえば、このユーティリティは、ドライブをリセットしたり、ドライブをUP/DOWN状態に設定する際に使用します。



このユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [デバイス モニタ] アイコンをクリックします。[デバイス モニタ] ウィンドウが表示されます。



[デバイス モニタ] ウィンドウには、各ドライブの現在のステータスが表示されます。このウィンドウで、各ドライブの状態を簡単に変更できます。たとえば、ドライブを **DOWN** に設定して **Media Manager** によって使用されないようにしたり、ドライブをリセットしてハング状態をクリアすることができます。ドライブにリクエストが自動的に割り当てられない場合は、手動で割り当てることもできます。

## ボリュームの管理

ここでは、NetBackup のボリュームを管理する方法について説明します。ボリュームは、Media Manager が使用するためのメディア ID などの属性が割り当てられたリムーバブル メディアです。

NetBackup を最初にインストールするときは、ウィザードを使用することをお勧めします。以後は、[メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用して新しいボリュームを定義します。このユーティリティは柔軟性に優れ、より高度なオプションを利用できます（「[メディアとデバイス管理]ユーティリティ」（54 ページ）を参照）。

### ボリュームの設定ウィザード

このウィザードでは、デフォルトの属性を使用して新しいボリュームを定義できます。このウィザードを使用すると、スタンドアロンドライブで使用する新しいボリュームを定義し、ロボットのインベントリを開始できます。ロボット内に新しいメディアが見つかったら、デフォルトの属性を使用して新しいボリュームが自動的に定義されます。

ボリュームの設定ウィザードは、初期設定ウィザードまたは NetBackup アシスタントから起動できます。

#### 新しいボリュームの定義

##### ▼ スタンドアロン ドライブで使用する場合

1. 前の節の説明に従って、スタンドアロンドライブが正しく設定されていることを確認します。
2. ボリュームの設定ウィザードを起動します。
3. 2ページ目に、サーバに設定されているロボットまたはスタンドアロンドライブのタイプがツリービューとして表示されます。必要なスタンドアロンドライブのタイプを選択し、[次へ]をクリックします。
4. 定義する新しいボリュームの数を指定し、[次へ]をクリックします。

##### ▼ 新しいロボティック ボリュームの定義

1. 前の節の説明に従って、ロボットが正しく設定されていることを確認します。
2. ロボットに新しいメディアを挿入します。
3. ボリュームの設定ウィザードを起動します。
4. 2ページ目に、サーバに設定されているロボットまたはスタンドアロンドライブのタイプがツリービューとして表示されます。ロボットを選択し、[次へ]をクリックします。



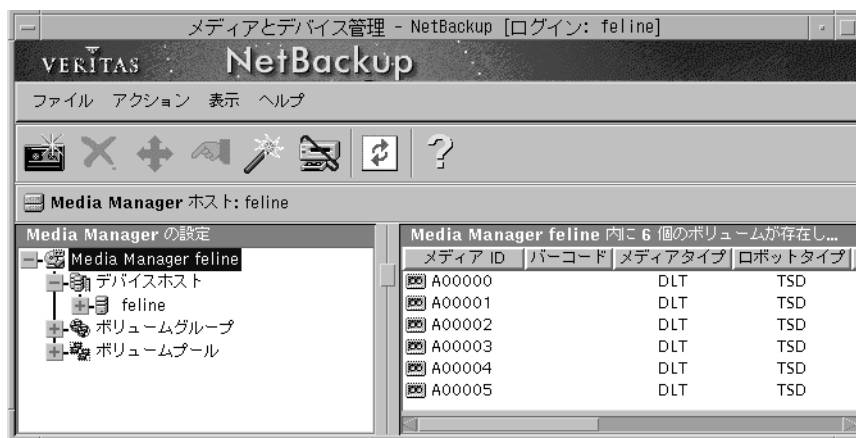
5. 3ページ目に表示される指示をよく読み、その指示に従います。[次へ]をクリックすると、ロボットのインベントリが開始されます。インベントリ中に新しいメディアが見つかったら、デフォルトの属性を使用して新しいボリュームが自動的に定義されます。
6. インベントリの結果は、4ページ目に表示されます。

## [メディアとデバイス管理]ユーティリティ

[メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用すると、以下の操作を行うことができます。

- ◆ ロボティック ライブラリのテープのインベントリ。以下のインベントリ操作から選択できます。
  - a. ロボットの内容を確認し、各スロットのメディアのメディア ID をレポートします。
  - b. 現在のロボットの内容とボリューム設定を比較し、ロボット内でボリュームが物理的に移動されているかどうかを確認します。
  - c. ロボットの内容とボリューム設定を比較し、ロボットの現在の内容に合わせてボリュームデータベースを更新するために必要な変更をプレビューします。
  - d. ロボットの内容とボリューム設定を比較し、ロボットの現在の内容に合わせてボリュームデータベースを更新するために必要な変更を行います。この操作を行うと、新しいボリュームが定義される場合があります。
- ◆ ボリュームを手動で追加するために必要なメディア ID などの属性の指定。
- ◆ ボリュームの変更または削除。

このユーティリティを起動するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [メディアとデバイス管理] アイコンをクリックします。[メディアとデバイス管理] ウィンドウが表示されます。



このユーティリティの詳細については、『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX』を参照してください。



## メディア（テープ）の管理

ここでは、NetBackup 管理者が行うテープの管理について説明します。

**注** DataCenter バージョンの NetBackup では、各種のリムーバブル メディアを使用できますが、BusinessServer で使用できるのはテープ ドライブだけです。したがって、BusinessServer では、メディア、テープ、およびボリュームのすべてがテープを意味します。

### カタログ バックアップ メディア（テープ）の管理

ディザスタ リカバリ手順を簡略化するために、バックアップ ポリシーで定義されたレギュラー バックアップ用のテープにはカタログ バックアップは書き込まれません。また、カタログ バックアップ用のテープにはレギュラー バックアップは書き込まれません。したがって、カタログ バックアップ用のテープを管理する場合は、以下の点を考慮する必要があります。

通常、カタログをバックアップする場合は、自動カタログ バックアップのスケジュールを設定し、そのカタログ バックアップをテープに送る方法が最も安全です。

カタログのバックアップは毎回同じテープに送ることも、2本の異なるテープに交互に送ることもできます。2本のテープを使用する場合は、1本目のテープが最初のバックアップに使用され、2本目のテープが2番目のバックアップに使用されます。以後、交互に使用されます。

カタログ バックアップ用のテープが磨耗しないように、また、データを保護するために、カタログ バックアップ用のテープは定期的に取り替えてください。新しいテープに取り替えるときは、最新のカタログ バックアップ テープを安全な場所（オフサイトの保存場所など）に保管します。

#### カタログ バックアップ用の新しいテープの割り当て

カタログをテープにバックアップする前に、以下の操作が必要です。

- Media Manager の設定にボリュームを追加します。
  - ❖ [メディアとデバイス管理]ユーティリティを使用して新しいボリュームを追加するには、[アクション]メニューで以下のいずれかを選択します。
    - ◆ [ロボットのインベントリ]。次に、[ボリューム設定の更新]をクリックします。
    - ◆ [新規]。次に、[ボリューム]をクリックします。
  - ❖ ボリュームの設定ウィザードを使用して新しいボリュームを追加するには、以下の操作を行います。
    - ◆ [NetBackup 管理]ウィンドウで、[開始]をクリックし、[アシスタント]をクリックします。次に[ボリュームの設定]をクリックします。
- カタログ バックアップの設定にボリュームを割り当てます。



この操作を最も簡単に行うには、カタログ バックアップの設定ウィザードを実行し、ボリュームのメディア ID を指定します。詳細については、「カタログ バックアップの設定」(59 ページ) を参照してください。

3. カタログ バックアップに使用するメディア ID を記録します。各テープに物理ラベルを貼り付け、メディア ID と NetBackup カタログ バックアップ テープであることを記入します。問題が発生し、カタログをリストアすることになった場合は、最新のカタログ バックアップ テープのメディア ID が必要となります。

### 自動カタログ バックアップ

- ◆ ロボティック ライブラリまたはスタッカにバックアップする場合

ロボティック ライブラリまたはスタッカを使用してカタログ バックアップとレギュラー バックアップを処理する場合は、レギュラー バックアップの各セッション後にカタログ バックアップが自動的に実行されるように設定します。カタログ バックアップ テープの交換は、ストレージ デバイスによって自動的に行われます。

- ◆ 専用のスタンドアロン テープ ドライブにバックアップする場合

ロボティック デバイスはないが、別のスタンドアロン テープ ドライブがある場合は、そのドライブをカタログ バックアップ専用にすると、テープの交換回数を最小限に抑えることができます。

- ◆ スタンドアロン テープ ドライブにバックアップする場合

1 台のスタンドアロン テープ ドライブを使用して、カタログ バックアップとレギュラー バックアップの両方を行う場合は、以下に説明するように、レギュラー バックアップの完了後にカタログ バックアップ用のテープに交換します。以後も、交互に取り替えます。

- ▼ スタンドアロン テープ ドライブを使用してカタログを自動的にバックアップするには

ここでは、1 台のスタンドアロン ドライブだけを使用して自動カタログ バックアップを行う場合に必要な物理手順について説明します。以下の手順は、レギュラー バックアップの実行がスケジュールされている日に毎回実行します。

1. レギュラー バックアップに使用するスタンドアロン テープ ドライブを準備します。

- ❖ スタンドアロン ドライブにテープを挿入します。

スケジュールされたレギュラー バックアップの実行時には、まずバックアップに必要なテープがスタンドアロン ドライブに入っているかが確認されます。

レギュラー バックアップ用のテープが見つかり、バックアップが続行されます。ラベルのない空のテープが見つかり、そのテープに新しいメディア ID が割り当てられ、ラベルが設定され、バックアップが続行されます。

レギュラー バックアップ用のテープが見つからない場合は、特定のテープに対するマウント要求が発行されます。スタンドアロンドライブにテープがロードされ、マウント要求が満たされるまで、バックアップは停止します。マウント要求は、[デバイス モニタ]ユーティリティに表示されます。ドライブにテープを挿入し、[デバイス モニタ]ユーティリティを使用してマウント要求を割り当てます。

2. カタログ バックアップに使用するスタンドアロン テープ ドライブを準備します。
  - a. スケジュールされたレギュラー バックアップが正常に終了すると、カタログ バックアップ用のテープのマウント要求が発行されます。マウント要求は、[デバイス モニタ]ユーティリティに表示されます。

スケジュールされたレギュラー バックアップが正常に終了しなかった場合は、その問題を解決する必要があります。スケジュールされた次のバックアップ セッションが正常に終了すると、カタログ バックアップ用のテープのマウント要求が発行されます。
  - b. レギュラー バックアップ用のテープを取り外し、安全な場所に保管します。
  - c. カタログ バックアップ用のテープをスタンドアロン ドライブに挿入します。

通常、マウント要求は自動的に割り当てられます。
  - d. マウント要求が満たされると、カタログ バックアップが開始されます。
3. スケジュールされたレギュラー バックアップに使用するスタンドアロン テープ ドライブを準備します。
  - ❖ カタログ バックアップが完了したら、カタログ バックアップ用のテープをドライブから取り外し、安全な場所に保管します。

### 手動カタログ バックアップ（スタンドアロン テープ ドライブ）

必要に応じて、カタログ バックアップを手動でのみ開始できるように設定することができます。スタンドアロンドライブをレギュラー バックアップとカタログ バックアップの両方に使用している場合は、カタログ バックアップを実行する前にカタログ バックアップ用のテープを挿入し、終了後に取り外す必要があります。レギュラー バックアップのセッションが完了するたびにカタログ バックアップ用のテープに取り替えないと、カタログ バックアップは自動的に実行されません。この場合は、カタログ バックアップを手動で実行する必要があります。

---

**注** ロボティック ライブラリを使用している場合は、カタログ バックアップが自動でも開始されるように設定してください。カタログ バックアップを開始し忘れると、障害の発生時のリカバリ手順が複雑になります。

---

#### ▼ カタログを手動でバックアップするには

カタログを手動でバックアップする方法について以下に説明します。



1. スケジュールされたレギュラー バックアップに使用するスタンドアロン テープ ドライブを準備します。この手順は、「自動カタログ バックアップ」の手順 1 と同じです。
2. カタログ バックアップの準備をします。
  - a. レギュラー バックアップ用のテープを取り外します。
  - b. カタログ バックアップ用のテープを挿入します。
3. カタログ バックアップを実行します。
  - a. [開始] メニューの [NetBackup カタログのバックアップ] をクリックします。
  - b. カタログ バックアップが完了したら、カタログ バックアップ用のテープをドライブから取り外し、安全な場所に保管します。

## Media Manager の設定へのボリューム（テープ）の追加

ここでは、Media Manager の設定にテープを追加する方法について簡単に説明します。詳細については、『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administrator's Guide - UNIX』でボリュームに関する情報を参照してください。

Media Manager の設定にテープを追加する方法は、以下に示すように、テープの使用方法によって異なります。

### ▼ ロボティック ライブラリのテープに対するボリュームの追加

1. ロボティック ライブラリにテープを挿入します。
2. ボリュームの設定ウィザードを起動します。

または

ボリューム設定の更新手順を実行します。詳細については、『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administration Guide - UNIX』を参照してください。

更新中に、新しいテープには Media Manager によってメディア ID などの属性が自動的に割り当てられます。

### ▼ スタンドアロン ドライブのテープに対するボリュームの追加

スタンドアロン ドライブには、テープを手動でロードする必要があります。

1. ラベルのない空のテープをドライブに挿入します。
2. ボリュームの設定ウィザードを起動します。

または



今回のバックアップで同じタイプのテープが必要になった場合は、そのテープにはメディア ID が自動的に割り当てられ、ラベルが設定され、バックアップに使用されます。NetBackup では、この方法で Media Manager の設定にテープが追加されます。

▼ **カタログ バックアップ用のテープに対するボリュームの追加**

カタログ バックアップ用のテープを使用する前に、そのテープを Media Manager の設定に追加し、カタログ バックアップ用として割り当てる必要があります。テープの割り当てには、カタログ バックアップ ウィザードを使用できます。NetBackup の `bplabel` コマンドを使用してメディアにラベルを設定することもできます。

## カタログ バックアップの設定

ここでは、カタログのバックアップ（カタログ バックアップ）を設定する方法について説明します。カタログ バックアップの詳細については、「バックアップ ポリシーとカタログ バックアップについて」（2 ページ）を参照してください。

- ◆ カatalog バックアップに使用するメディアを選択します。
- ◆ カatalog バックアップの設定ウィザードを使用してバックアップのスケジュールを設定します（「NetBackup カatalog バックアップ ウィザードの使い方」（61 ページ）を参照）。

### カタログ バックアップに必要なメディアの選択

使用できるストレージ デバイスごとに、以下に示す方法でカタログのバックアップを行うことをお勧めします。

1. ロボット、テープ スタッカなどの自動デバイスを使用している場合は、自動デバイスにカタログ バックアップを保存します。バックアップの開始時に、ロボットまたはテープ スタッカ内のボリュームは NetBackup によって自動的に検出されるため、これらの自動デバイスを使用すると簡単にカタログをバックアップできます。
2. ロボットまたはテープ スタッカはないが、余分なスタンドアロン ストレージ デバイスがある場合は、そのデバイスをカタログ バックアップ専用割り当てます。
3. ロボットもテープ スタッカもなく、1 台のスタンドアロン ドライブだけを使用する場合は、カタログ バックアップをハードディスク ドライブに送る方法が便利です。カタログ バックアップを保存するハードディスク ドライブと、カタログがあるハードディスク ドライブは別でなければなりません。デフォルトでは、カタログは以下の場所に保存されます。したがって、この方法を使用する場合は、カタログ バックアップの保存先として以下の場所とは異なるドライブを指定します。

```
/usr/opensv/netbackup/db
```

```
/usr/opensv/volmgr/database
```



カタログのバックアップ先として、**root** ユーザに書き込みアクセス権が与えられている **NFS** マウントしたファイルシステムまたは **NFS** マウントしたファイルシステムへのリンクを指定することもできます。

**注意** データを保護するための最も安全な方法は、カタログ バックアップを含むすべてのバックアップをリムーバブル メディアに保存し、そのメディアのフルセットを定期的にオフサイトの保存場所に移動することです。バックアップをディスクに書き込むだけでは、バックアップ対象のコンピュータとリスクを共有することになります。バックアップをディスクだけに保存した場合は、雷、洪水、火災などの自然災害によってオリジナル データとバックアップの両方が破損するおそれがあります。

カタログとカタログ バックアップが入ったディスクの両方が破損した場合は、ビジネス データのリカバリはより困難になります。ビジネス データのバックアップをテープに保存していても、カタログ バックアップを使用せずにリカバリする場合は、バックアップ テープのすべてのデータを手動でインポートしてカタログを再構築する必要があります。このプロセスには時間がかかるので、ほかの業務に支障が生じるおそれがあります。

4. ロボットもテープ スタッカもなく、1台のスタンドアロンドライブだけを使用する場合、別のハードディスクドライブに十分な空き領域がないときは、ビジネス データのバックアップと同じテープドライブにカタログをバックアップする必要があります。この場合は、カタログをバックアップするたびにドライブのテープを交換しなければなりません。テープの交換は不便ですが、**NetBackup** ではカタログ バックアップとレギュラー バックアップを同じテープに保存できないため、テープの交換が必要になります。

## カタログ バックアップのスケジュールの選択

カタログ バックアップをロボット、テープ スタッカ、別のスタンドアロン テープドライブ、またはディスクに送る場合は、以下の各セッション後に、2つの自動バックアップのいずれかを選択します。

- ◆ スケジュールされたバックアップ、ユーザ バックアップ、または手動バックアップの各セッション後

または

- ◆ スケジュールされたバックアップの各セッション後

1台のスタンドアロン テープドライブを使用してカタログとビジネス データの両方をバックアップする場合は、以下の方法のいずれかを選択します。**NetBackup** では、同じテープにカタログ バックアップとレギュラー バックアップの両方を保存できないため、どちらの方法でもテープを交換する必要があります。

- ◆ 1日または1晩に1つのバックアップ セッションだけを実行する場合は、[各スケジュール バックアップ セッション後] をクリックします。
- ◆ 1日または1晩に複数のバックアップ セッションを実行する場合は、[手動で開始する場合のみ] をクリックします。



---

1日1回または一連のバックアップ後に手動カタログ バックアップを実行します。

---

**注意**      カタログは頻繁にバックアップする必要があります。カタログ ファイルが失われると、最後のカタログ バックアップからディスクのクラッシュ時までのバックアップと設定の変更に関する情報が失われます。

---

## NetBackup カタログ バックアップ ウィザードの使い方

このウィザードを使用すると、NetBackup カタログのバックアップ方法を指定できます。このウィザードは、NetBackup アシスタントから起動できます。

テープにバックアップする場合は、以下の点に注意します。カタログ バックアップ ウィザードを使用する前に、ストレージ デバイスとメディアを設定します。設定方法については、「ストレージ デバイスの管理」(46 ページ)を参照してください。NetBackup ボリューム プールに属するメディア ID で、レギュラー バックアップにまだ割り当てられていないものが1つまたは2つあることを確認します。

---

**ヒント**      ウィザードで[カタログをバックアップする日時]というページが表示されたら、[詳細情報] ボタンをクリックすると表示されるテキストに指定されている基準に従って選択を行います。

---

## カタログ バックアップのリストア方法

サーバがクラッシュし、サーバ内のすべての情報が失われた場合は、『NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX』のディザスタ リカバリに関する章で、カタログのリカバリ手順を参照してください。



## バックアップ ポリシー (クラス) の設定

NetBackup を使用してデータのレギュラー バックアップを実行するには、少なくとも1つのバックアップ ポリシーに適切なクライアント、ファイル リスト、およびスケジュールを設定する必要があります。詳細については、「バックアップ ポリシーとカタログ バックアップについて」 (2 ページ) を参照してください。

---

**注** バックアップ ポリシー (クラス) は、共通のバックアップ要件を持つ1~4台 (Client Expansion Pack を使用した場合は最大8台) のリモート クライアントのグループに対して、レギュラー バックアップの方法を定義するパラメータのセットです。サーバもクライアントとして指定できます。サーバは、リモート クライアントの最大数である4台の中には含まれません。

---

グラフィカル ユーザ インタフェースからバックアップ ポリシー (クラス) を作成するには、以下の3通りの方法があります。

- ◆ ウィザードを使用する。
- ◆ テンプレートをコピーして編集する。
- ◆ 手動で最初から作成する。

バックアップ ポリシーを作成する前に、カタログ バックアップを設定します。設定方法については、「カタログ バックアップの設定」 (59 ページ) を参照してください。

### ウィザードによるバックアップ ポリシーの作成

このウィザードを使用すると、NetBackup クライアントのバックアップ方法を指定できます。デフォルトの設定を使用すると、バックアップ ポリシーをすばやく簡単に作成できます。

クラスに使用できるすべての設定にアクセスするには、新しいクラスを作成するか、または既存のクラスを直接編集します。詳細については、以下の節で説明します。

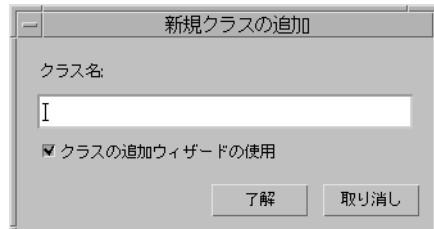
バックアップ ポリシー ウィザードは、以下の2つの場所から起動できます。

- ◆ NetBackup アシスタント
  - [バックアップ ポリシーの作成] をクリックします。
- ◆ [バックアップ ポリシー管理 (クラス) ] ユーティリティ
  - a. [NetBackup 管理] ウィンドウ (「NetBackup 管理 インタフェースの起動」 (19 ページ) を参照) を開いて、[バックアップ ポリシー管理] アイコンをクリックします。[バックアップ ポリシー管理 (クラス) ] ウィンドウが表示されます。
  - b. ツリーで、新しいクラスを追加するサーバを選択します。バックアップ ポリシーの作成バックアップ ポリシー管理 (クラス)





- c. [編集]メニューの[新規]をクリックします。以下の画面が表示されます。



- d. ボックスに一意的なクラス名を入力します。

アルファベット（ASCIIのA～Z/a～z）、数字（0～9）、プラス記号（+）、マイナス記号（-）、アンダースコア（\_）、またはピリオド（.）の各文字を使用できます。マイナス記号は先頭文字としては使用できません。文字間にはスペースを挿入しません。

- e. [クラスの追加ウィザードの使用]チェックボックスを選択します。

- f. [了解]をクリックします。ウィザードが表示されます。

NetBackupの設定をテストするには、「NetBackup設定のテスト」（75 ページ）の説明に従います。

ウィザードを使用してクラスを作成したら、[バックアップポリシー管理]ユーティリティを使用してクラスの各設定を編集できます。このユーティリティを使用すると、クラスの以下の各設定を変更できます。

- ◆ クラス属性
- ◆ クライアントリスト
- ◆ ファイルリスト
- ◆ スケジュールとその属性

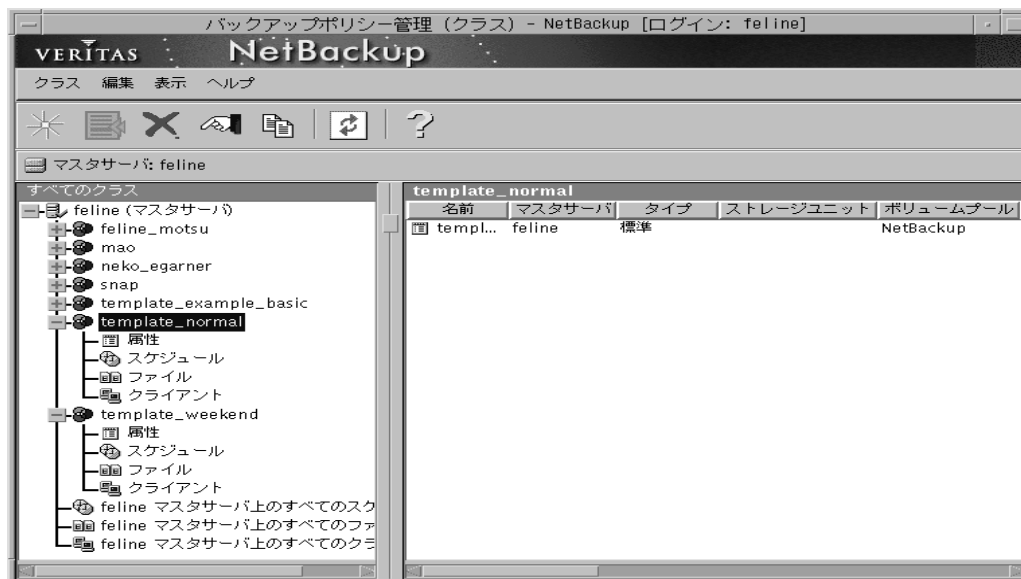
### テンプレートのコピーと編集によるバックアップポリシーの作成

コンピュータに初めてNetBackup BusinessServerをインストールする場合、つまりアップグレードではない場合は、2つのサンプルテンプレートクラスをインストールすることができます。各テンプレートから独自のクラスを作成できます。

1. NetBackup管理インタフェースを起動します。起動方法については、「NetBackup管理インタフェースの起動」（19 ページ）を参照してください。
2. [バックアップポリシー管理]アイコンをクリックします。[バックアップポリシー管理（クラス）]ウィンドウが表示されます。



3. ウィンドウの左側のペインで、[template\_normal] クラスと [template\_weekend] クラスをクリックして開きます。



クラスは、共通のバックアップ要件を持つ1～4台のクライアント（および必要に応じてサーバ）のグループに対するバックアップパラメータのセットです。ウィンドウの左側のペインのツリービューに表示されるように、各クラスは属性、スケジュール、ファイルリスト、およびクライアントリストで構成されます。各項目を設定する場合または設定を表示する場合は、ツリー内でその項目をダブルクリックします。ダイアログボックスが開き、選択した項目のNetBackup設定が表示されます。

[template\_normal] クラス テンプレートと [template\_weekend] クラス テンプレートの内容を確認します。特に、テンプレートのスケジュールを確認します。通常、クラスを設定するには、テンプレートのサンプルクラスを変更して使用します。まず、[クラスをコピー]機能を使用してテンプレート クラスを新しいクラスにコピーします。次に、そのクラス属性、スケジュール、クライアントリスト、およびファイルリストを必要に応じて変更します。

### 手動によるバックアップポリシーの作成

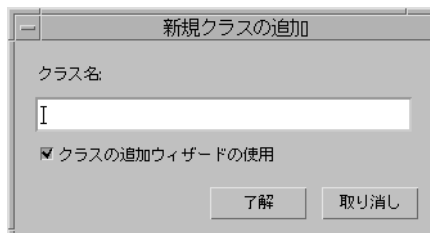
バックアップポリシーを手動で作成するには手間がかかりますが、手動で作成する場合は、クラスを最初に設定する際に、使用可能なすべての設定に直接アクセスできます。クラスを手動で設定する手順は、以下の通りです。

1. NetBackup 管理インタフェースを起動します。起動方法については、「NetBackup 管理インタフェースの起動」（19 ページ）を参照してください。

2. [バックアップポリシー管理]アイコンをクリックします。[バックアップポリシー管理（クラス）- NetBackup]ウィンドウが表示されます。



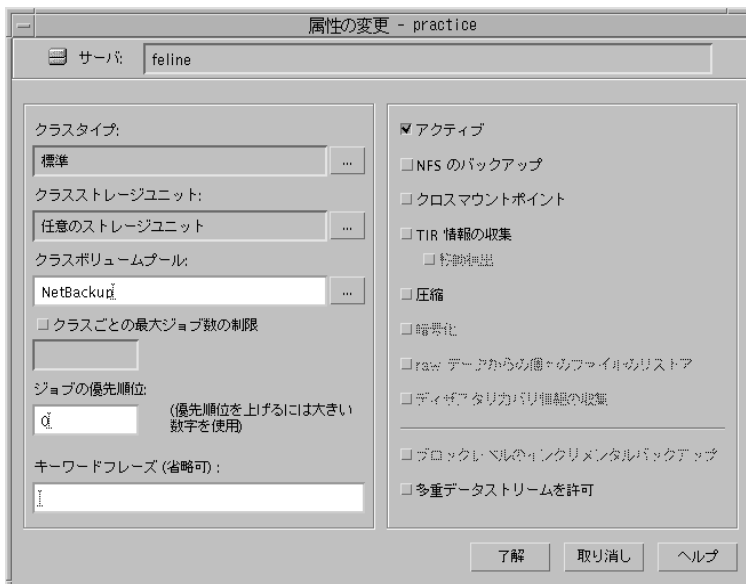
3. サーバを選択します。
4. [編集]メニューの[新規]をクリックします。[新しいクラスの追加]ダイアログボックスが表示されます。



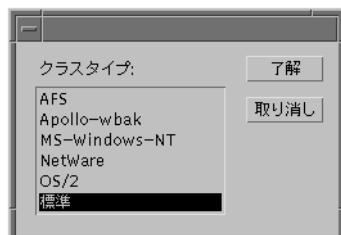
- a. 作成する新しいクラスの一意な名前を入力します。この例では、クラス名を「**practice**」とします。
- b. [クラスの追加ウィザードの使用]チェックボックスをクリアします。



- c. [了解]をクリックします。



5. クラスタイプを入力します。[...]ボタンをクリックすると、クラスタイプのリストが表示されます。

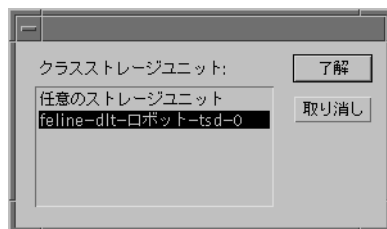


クラスタイプ別の用途を以下の表に示します。

クラス	クラスタイプ別のバックアップ対象
Informix-On-BAR	UNIXクライアントのInformixデータベースをバックアップするときに使用します。
Lotus Notes	NetBackup for Lotus Notes オプションがあるクライアントをバックアップするときに使用します。クラスは、Lotus Notes オプションがある NetBackup クライアントだけで構成します。
MS-Exchange	Windows NT/2000 クライアントの MS Exchange データベースをバックアップするときに使用します。

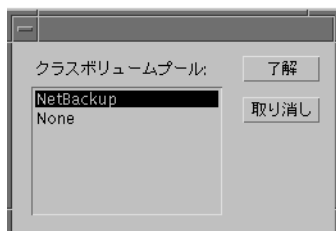
クラス	クラス タイプ別のバックアップ対象
MS-SQL-Server	Windows NT/2000 クライアントのMS-SQL Server データベースをバックアップするときに使用します。クラスは、NetBackup for MS-SQL Server クライアントだけで構成します。
MS-Windows-NT	Windows NT/2000 クライアントをバックアップするときに使用します。クラスは、NetBackup for Windows NT/2000 クライアントだけで構成します。
NetWare	NonTarget バージョンの NetBackup ソフトウェアがある Novell NetWare クライアントをバックアップするときに使用します。
NDMP	NetBackup for NDMP オプションがあるクライアントをバックアップするときに使用します。クラスは、NDMP オプションがある NetBackup クライアントだけで構成します。
Oracle	UNIX または Windows NT/2000 クライアントの Oracle データベースをバックアップするときに使用します。
OS/2	OS/2 Warp クライアントをバックアップするときに使用します。クラスは、NetBackup for OS/2 クライアントだけで構成します。
Standard	クラスが以下の組み合わせであるときに使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 98、95、または 3.11 クライアント</li> <li>◆ Macintosh クライアント</li> <li>◆ Target バージョンの NetBackup ソフトウェアがある NetBackup Novell NetWare クライアント</li> <li>◆ UNIX クライアント（Oracle などの特定のクラスに属するものを除く）</li> </ul>
Sybase	UNIX クライアントの Sybase データベースをバックアップするときに使用します。

6. バックアップの送信先のストレージユニットを制御する場合は、クラスに対してストレージユニットを指定します。ただし、この指定よりも、クラスのスケジュール別の設定が優先します。



ストレージユニットは、NetBackup のデータをバックアップするために設定されたストレージデバイスのグループです。詳細については、「ストレージユニット」（5 ページ）と「ストレージユニットの管理」（48 ページ）を参照してください。

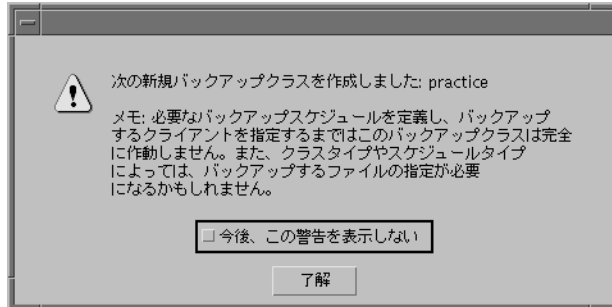
7. クラスのデフォルトのボリューム プールを選択します。このオプションは、ディスク タイプのストレージ ユニットには使用できません。



ボリューム プールは、特定のアプリケーションで使用するために **Media Manager** 内に設定されたボリュームのセットです。ほかのアプリケーションやユーザによるアクセスからは保護されます。

8. このクラスの並行処理するバックアップ ジョブ数を制限する場合は、[クラスごとの最大ジョブ数の制限] チェックボックスを選択し、最大ジョブ数を入力します。
9. ジョブのプライオリティを入力します。数値が大きいほど、プライオリティが高くなります。つまり、複数のジョブを同時に実行するようにスケジュールされている場合は、プライオリティが最も高いジョブが最初に実行されます。たとえば、**10** 個のクラスがある場合に、特定のクラスのプライオリティを最高にするには、**10** 以上の数字を入力します。
10. クラスのすべてのバックアップとアーカイブにキーワード フレーズを対応付ける場合は、キーワード フレーズを入力します。このキーワード フレーズは、ユーザが [バックアップ、アーカイブ、およびリストア] ユーティリティからバックアップを開始するときにオーバーライドできます。キーワード フレーズを使用すると、ユーザまたはオペレータはリストア時に必要なデータを簡単に見つけることができます。
11. [アクティブ] チェックボックスを選択してクラスをアクティブにします。
12. **UNIX** クライアントでファイルシステムの境界にまたがってバックアップまたはアーカイブを行う場合は、[クロスマウントポイント] チェックボックスを選択します。
13. ツール イメージ リカバリを実行する場合は、[TIR 情報の収集] チェックボックスを選択します。このオプションを使用すると、ディレクトリの内容が、スケジュールされたフルバックアップまたはインクリメンタルバックアップの実行時の内容にリストアされます。以前に削除されたファイルは無視されます。
14. 圧縮を有効にするには、[圧縮] チェックボックスを選択します。
15. 自動バックアップ スケジュールによって各クライアントの複数のバックアップ ストリームを開始するには、[多重データストリームを許可] チェックボックスを選択します。複数のデータ ストリームの詳細については、『**NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX**』を参照してください。

16. [了解]をクリックして[属性の変更]ダイアログボックスを閉じます。以下のメッセージが表示されます。



[了解]をクリックして警告ボックスを閉じます。

作成した新しいクラスが[バックアップポリシー管理 (クラス) - NetBackup]ウィンドウの[すべてのクラス]ペインに表示されます。



[属性の変更]ダイアログボックスに入力した設定は、[practice]ペインに表示されます。すべての設定を表示するには、ペインの下部のスクロールバーを使用します。

## スケジュールの追加と変更

以下の5種類のバックアップ スケジュールを設定できます。

- ◆ フルバックアップ - クラスのファイル リストに指定したユーザのすべてのファイルとディレクトリが自動的にバックアップされます。インクリメンタル バックアップを使用する場合、完全なリストアを実行するには、フル バックアップもスケジュールする必要があります。
- ◆ 累積インクリメンタルバックアップ - 最後のフルバックアップ以降に変更されたすべてのファイルがバックアップされます。この場合、完全なリストアを行うには、最新のフルバックアップと最新の累積インクリメンタルバックアップが必要です。
- ◆ 差分インクリメンタルバックアップ - 最後のインクリメンタル バックアップまたはフルバックアップ以降に変更されたすべてのファイルがバックアップされます。この場合、完全なリストアを行うには、最後のフルバックアップと、最後のフルバックアップ以降に行われたすべての差分インクリメンタルバックアップが必要です。
- ◆ ユーザ バックアップ - ユーザが [バックアップ、アーカイブ、およびリストア]ユーティリティを使用して独自のファイルをバックアップします。
- ◆ ユーザ アーカイブ - ユーザが独自のファイルをアーカイブします。アーカイブは、バックアップが正常に終了するとバックアップ元のファイルがユーザのディスクから削除されるという点が、バックアップとは異なります。アーカイブは、保存する必要があっても使用頻度が低いファイルのディスク領域を解放する場合に便利です。
- ◆ バックアップ ポリシー - すべてのデータベース エージェント クライアントに適用されるバックアップ。このバックアップに対するスケジュールの設定の詳細については、製品に付属する NetBackup ガイドを参照してください。



- ◆ 自動バックアップ - **NetBackup for Oracle**を除くすべてのデータベース エージェント クライアントに対する自動バックアップ。このバックアップに対するスケジュールの設定の詳細については、製品に付属する **NetBackup** ガイドを参照してください。

#### ▼ ユーザ バックアップまたはユーザ アーカイブのスケジュール

1. [バックアップポリシー管理（クラス）] ウィンドウの [すべてのクラス] ペインで、新しいクラスの下に [スケジュール] をダブルクリックします。[スケジュールの追加 - クラス practice] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [名前] ボックスに、スケジュールの一意的な名前を入力します。  
アルファベット（ASCII の A～Z/a～z）、数字（0～9）、プラス記号（+）、マイナス記号（-）、アンダースコア（\_）、またはピリオド（.）の各文字を使用できます。マイナス記号は先頭文字としては使用できません。文字間にはスペースを挿入しません。
3. [バックアップタイプの指定] ボックスで、[ユーザ バックアップ] または [ユーザ アーカイブ] を選択します。
4. [リテンション] には、バックアップを保持する期間を指定します。たとえば、3か月を指定すると、このスケジュールによるバックアップからデータをリストアできるのは、バックアップ後の3か月間に限られます。アーカイブ操作では、バックアップが正常に終了するとバックアップ元のファイルがディスクから削除されます。したがって、ユーザ アーカイブのスケジュールでは、通常、リテンション ピリオドを無期限に設定します。  
  
デフォルトでは、リテンション ピリオドが異なるバックアップは同じテープに保存されません。リテンション ピリオドが異なるバックアップを同じテープに保存するには、`/usr/opensv/netbackup/bp.conf` ファイルに `ALLOW_MULTIPLE_RETENTIONS_PER_MEDIA` オプションを追加します。  
  
ただし、このオプションを追加する前に、リテンション レベルの詳細について確認する必要があります。『**NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX**』を参照してください。  
  
ドロップダウン リストに表示されていないリテンション ピリオドを使用する場合は、[NetBackup 管理] ウィンドウで [設定] メニューの [NetBackup システム設定] オプションを使用すると、使用できるリテンション レベルを再定義できます。
5. [メディアのマルチプレキシング] ボックスには、このスケジュールから特定のドライブに対してマルチプレックスできるジョブ数を指定します。
6. このスケジュールによるバックアップに特定のストレージ ユニットを使用するには、[クラス ストレージ ユニットを上書き] チェックボックスを選択し、リストからストレージ ユニットを選択します。



7. このスケジュールによるバックアップに対して特定のボリューム プールを使用するには、[クラス ボリューム プールを上書き]チェックボックスを選択し、リストからボリューム プールを選択します。
8. [スケジュール]の[開始時刻]と[有効期間]では、ユーザが[バックアップ、アーカイブ、およびリストア]ユーティリティを使用してバックアップを開始できる時間帯を設定します。たとえば、[開始時刻]を**0800**に、[有効期間]を**12**に設定すると、ユーザは午前**8**時と午後**8**時の間にバックアップを実行できます。
9. スケジュールを追加するには、[追加]をクリックし、スケジュールを指定します。指定したら、[了解]をクリックします。

#### ▼ フル バックアップまたはインクリメンタル バックアップのスケジュール

1. [バックアップ ポリシー管理 (クラス)]ウィンドウの[すべてのクラス]ペインで、新しいクラスの下[スケジュール]をダブルクリックします。[スケジュールの追加 - クラス practice]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [名前]ボックスに、スケジュールの一意な名前を入力します。

アルファベット (ASCIIのA~Z/a~z)、数字 (0~9)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、アンダースコア (\_)、またはピリオド (.) の各文字を使用できます。マイナス記号は先頭文字としては使用できません。文字間にはスペースを挿入しません。
3. [バックアップ タイプの指定]ボックスで、目的のバックアップ タイプを選択します。
4. [頻度]には、このバックアップを実行する頻度を設定します。

たとえば、フル バックアップの頻度に**1**週間を選択したとします。月曜日にフル バックアップが正常に終了したとすると、次のフル バックアップは次週の月曜日に実行されます。
5. [リテンション]には、バックアップを保持する期間を指定します。たとえば、**3**か月を指定すると、このスケジュールによるバックアップからデータをリストアできるのは、バックアップ後の**3**か月に限られます。

フル バックアップの場合は、常にスケジュールの頻度の設定より長い期間を指定します。たとえば、フル バックアップの頻度が**1**週間に設定されている場合は、リテンション ピリオドには**2**~**4**週間を指定します。これにより、次のフル バックアップが行われるまで現在のフル バックアップの有効期限は切れません。

累積インクリメンタル バックアップの場合も、常にスケジュールの頻度の設定より長い期間を指定します。たとえば、バックアップの頻度が**1**日に設定されている場合は、リテンション ピリオドには**3**~**5**日間を指定します。これにより、次の累積インクリメンタル バックアップが行われるまで現在の累積インクリメンタル バックアップの有効期限は切れません。完全なリストアを行うには、前回のフル バックアップと最新の累積インクリメンタル バックアップが必要です。

差分インクリメンタルバックアップの場合は、常にフルバックアップ間の期間より長い期間を指定します。たとえば、フルバックアップが毎週行われる場合は、インクリメンタルバックアップを2週間保存するようにします。完全なリストアを行うには、前回のフルバックアップと以降のすべてのインクリメンタルバックアップが必要です。

デフォルトでは、リテンション期間が異なるバックアップは同じテープに保存されません。リテンション期間が異なるバックアップを同じテープに保存するには、`/usr/opensv/netbackup/bp.conf` ファイルに `ALLOW_MULTIPLE_RETENTIONS_PER_MEDIA` オプションを追加します。

ただし、このオプションを追加する前に、リテンションレベルの詳細について確認する必要があります。『*NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX*』を参照してください。

ドロップダウンリストに表示されていないリテンション期間を使用する場合は、**[NetBackup 管理]** ウィンドウで **[設定]** メニューの **[NetBackup システム設定]** オプションを使用すると、使用できるリテンションレベルを再定義できます。

6. **[メディアのマルチプレキシング]** ボックスには、このスケジュールから特定のドライブに対してマルチプレックスできるジョブ数を指定します。
7. このスケジュールによるバックアップに特定のストレージユニットを使用するには、**[クラス ストレージ ユニットの書き込み]** チェックボックスを選択し、リストからストレージユニットを選択します。
8. このスケジュールによるバックアップに特定のボリューム プールを使用するには、**[クラス ボリューム プールの書き込み]** チェックボックスを選択し、リストからボリューム プールを選択します。ボリューム プールの詳細については、『*NetBackup BusinessServer Media Manager System Administrator's Guide - UNIX*』を参照してください。
9. **[スケジュール]** の **[開始時刻]** と **[有効期間]** には、自動バックアップを開始できる時間帯を設定します。

たとえば、バックアップに2時間かかる場合に、バックアップを午前**6:00**までに完了させるには、スタート ウィンドウが午前**4:00**以前（開始時刻プラス継続時間）に開く必要があります。システム リソースの競合によってバックアップが遅れた場合について考えます。このバックアップが実行される最後のチャンスは午前**4:00**です。システム リソースが午前**4:00**までに解放されないと、バックアップは次回にスタート ウィンドウが開くまで（おそらく翌日の夜まで）開始されません。
10. スケジュールを追加するには、**[追加]** をクリックし、スケジュールを指定します。指定したら、**[了解]** をクリックします。



#### ▼ ほかのバックアップ スケジュール

データベース エージェントに対して使用できるほかのスケジュール タイプ (自動バックアップ、バックアップ ポリシーなど) の設定については、各データベース エージェントのマニュアルを参照してください。

#### ファイル リストの変更

1. [バックアップ ポリシー管理 (クラス) ]ウィンドウの[すべてのクラス]ペインで、新しいクラスの下に[ファイル]をダブルクリックします。ファイルを指定するためのダイアログ ボックスが表示されます。
2. ファイル名、ディレクトリ名、またはパラメータを入力します。  
ファイルパスの指定の詳細については、『**NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX**』の「**Rules for Backup File Paths**」を参照してください。
3. ファイルを追加するには、[リストへの追加]をクリックし、追加するファイル名、ディレクトリ名、またはパラメータを入力します。追加するファイルをすべて指定したら、[ファイルリストへの追加]をクリックします。

#### クライアント リストの変更

1. [バックアップ ポリシー管理 (クラス) ]ウィンドウの[すべてのクラス]ペインで、新しいクラスの下に[クライアント]をダブルクリックします。クライアントを指定するためのダイアログ ボックスが表示されます。
2. [クライアント名]テキスト ボックスに、追加するクライアントの名前を入力します。  
クライアント名を追加するには、以下のルールに従います。
  - ◆ クライアントを複数のクラスに入れる場合は、すべてのクラスで同じ名前を使用します。
  - ◆ 名前は有効なホスト名でなければなりません。つまり、サーバからクライアントにPing またはtelnet を実行できる名前です。
  - ◆ ネットワーク設定に複数のドメインがある場合は、より限定された名前を使用します。たとえば、**mars** だけを使用するのではなく、**mars.bdev.null.com** または **mars.bdev** を使用します。
3. [ハードウェアとオペレーティング システム]リスト ボックスをクリックし、リスト内の対応するエントリを選択します。  
このクラスでサポートされているハードウェアとオペレーティング システムを使用するクライアントだけを追加します。たとえば、**MS-Windows-NT** クラスに、**Novell NetWare** クライアントまたは **Windows 98** クライアントを追加することはできません。



クライアントのハードウェアとオペレーティング システムがリストに表示されていない場合は、対応するクライアント ソフトウェアがサーバにインストールされていないことを意味します。『**NetBackup Release Notes**』で、ハードウェアとオペレーティング システムがサポートされているクライアント プラットフォームであるかどうかを確認してください。  
/usr/opensv/netbackup/client ディレクトリで、インストールするクライアントに対応するディレクトリとソフトウェアを確認します。ディレクトリまたはソフトウェアが見つからない場合は、サーバでインストール スクリプトを再実行し、クライアント ソフトウェアをインストールするオプションを選択します（「**NetBackup BusinessServer** のインストール方法」（14 ページ）を参照）。

4. クライアントを追加する場合は、[追加]をクリックし、追加するクライアントを指定します。追加するクライアントをすべて指定したら、[了解]をクリックします。

## NetBackup 設定のテスト

**注意** レギュラー バックアップを実行する前にカタログ バックアップを設定します。カタログ バックアップを設定しておかないと、カタログの保存先のディスクで障害が発生した場合に、バックアップのリストが困難になります。**NetBackup** の設定全体を最初からやり直すことになります。カタログ バックアップの設定の詳細については、「カタログ バックアップの設定」（59 ページ）を参照してください。

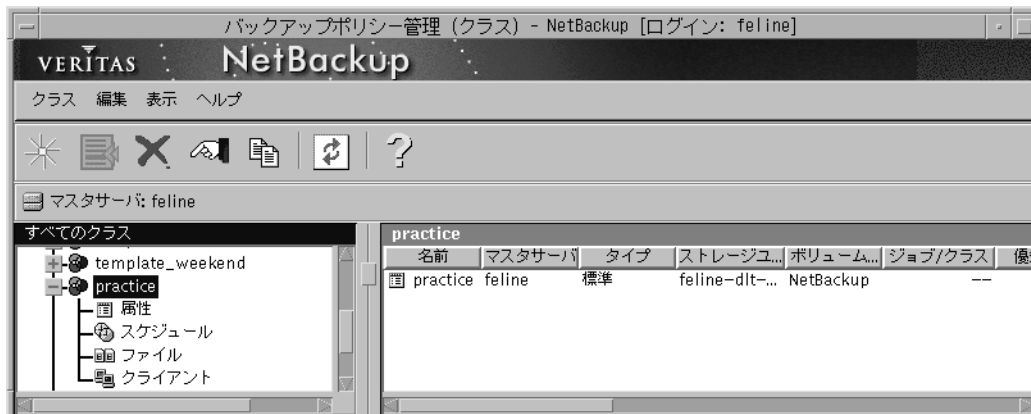
設定をテストするためにテスト バックアップを実行する手順を以下に示します。

**注** UNIX クライアントに **NetBackup** をまだインストールしていない場合は、ここでインストールします（「クライアント ソフトウェアのリモート インストール」（28 ページ）を参照）。

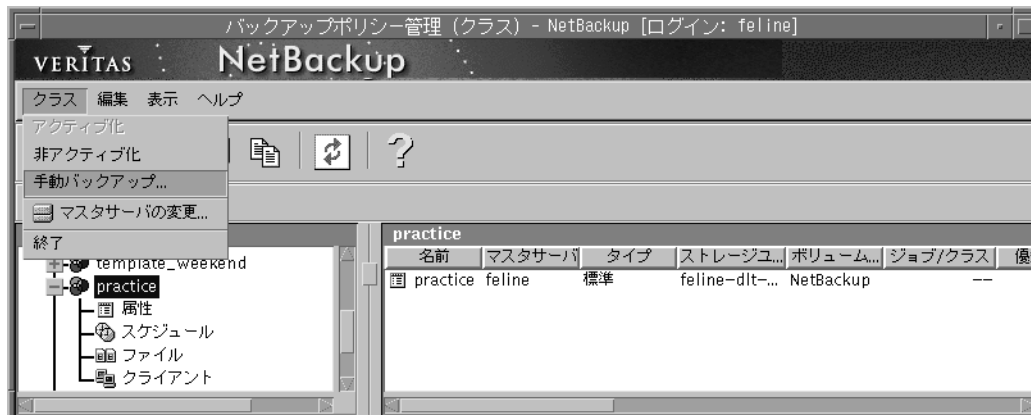
1. バックアップ用のメディアを準備します。
  - ◆ ロボティック ライブラリに未使用テープがあり、それをレギュラー バックアップに使用できる場合は、手順 2 に進んでください。
  - ◆ ロボティック ライブラリにレギュラー バックアップ用のテープがない場合は、58 ページの手順に従ってテープを追加します。
  - ◆ スタンドアロン テープ ドライブを使用する場合は、以下のいずれかの操作を行います。
    - ◆ デバイスの設定ウィザードの実行時に **Media Manager** の設定に追加した新しいボリューム（新しいメディア ID）がテープにまだ書き込まれていない場合は、テープ ドライブからすべてのテープを取り外します。これにより、テスト バックアップ用にいずれかのメディア ID が要求されます。テープをマウントすると、テープのラベルにそのメディア ID が設定されます。
    - ◆ **Media Manager** の設定に新しいボリューム（新しいメディア ID）を追加していない場合は、空の未使用テープまたは使用済みで期限切れの **NetBackup** テープをテープ ドライブに挿入します。空の未使用テープを挿入すると、新しいメディア ID が自動的に生成され、テープにラベルが設定され、バックアップが続行されます。



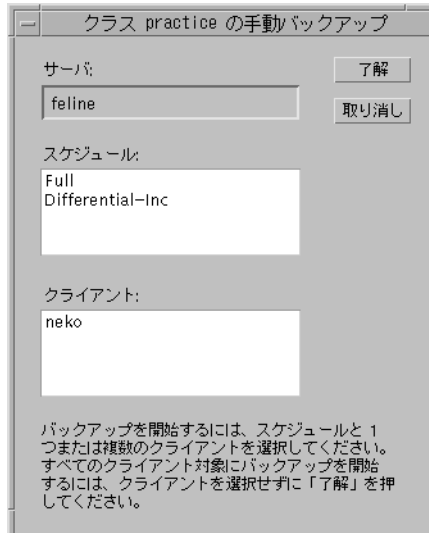
2. **NetBackup** 管理インタフェースを起動します。起動方法については、「**NetBackup** 管理インタフェースの起動」(19 ページ) を参照してください。
3. [バックアップ ポリシー管理]アイコンをクリックします。[バックアップ ポリシー管理 (クラス)]ウィンドウが表示されます。
4. バックアップするクラスを選択します。クラスは以下の条件を満たしている必要があります。
  - ◆ アクティブである。
  - ◆ クライアントが定義されている。
  - ◆ 自動バックアップ スケジュール (ユーザ バックアップまたはユーザ アーカイブ以外のスケジュール) がある。



5. [クラス]メニューの[手動バックアップ]をクリックします。



[手動バックアップ]ダイアログ ボックスが表示されます。



- ダイアログ ボックスに表示される指示に従います。
- [NetBackup 管理] ウィンドウで [アクティビティ モニタ] アイコンをクリックして [アクティビティ モニタ] ウィンドウを開きます。



デフォルトでは、このウィンドウの内容は 60 秒ごとに更新されます。自動更新によってテストバックアップの行が表示されるまで待つか、またはテストバックアップのエントリがリストに表示されるまで [更新] ボタンをクリックします。

テストバックアップのエントリがリストに表示されたら、そのエントリをダブルクリックしてバックアップジョブに関する詳細を表示します。[詳細] タブをクリックすると、ジョブのステータス出力が表示されます。[更新] ボタンをクリックすると、最新情報が表示されます。

NetBackup がマウント要求を待機中である場合は、[NetBackup 管理] ウィンドウで [デバイス モニタ] アイコンをクリックして [デバイス モニタ] ユーティリティを起動します。

## 自動電子メール通知の設定

### 一般的な通知の場合

スケジュールされたバックアップ、管理者指定の手動バックアップ、およびNetBackupカタログバックアップの通知を管理者が受け取るように設定するには、以下の手順に従います。カタログバックアップの通知には、使用されたメディアIDが含まれます。

1. サーバの [NetBackup 管理] ウィンドウで、[設定] メニューの [NetBackup システム設定] をクリックします。以下の画面が表示されます。



2. NetBackup システム管理者の電子メール アドレスを入力します。

### UNIX クライアントでのクライアント/ユーザ指定のアクティビティの通知

UNIX クライアントで実行されたクライアントおよびユーザ指定のアクティビティに関する電子メール通知を送信するようにNetBackupを設定することができます。

この設定を行うには、クライアントの `/usr/opensv/netbackup/bp.conf` ファイルとユーザの `bp.conf` ファイルに、**USEMAIL** エントリを追加します。





- ◆ クライアントの /usr/opensv/netbackup/bp.conf ファイルにアドレスが指定されている場合は、そのアドレスに自動バックアップと手動バックアップのステータスが送信されます。
- ◆ ユーザの bp.conf ファイルに電子メールアドレスが指定されている場合は、そのアドレスにユーザ指定の操作の成否に関するステータスが送信されます。ユーザは、各自のホーム ディレクトリに自分の bp.conf ファイルを置くことができます。

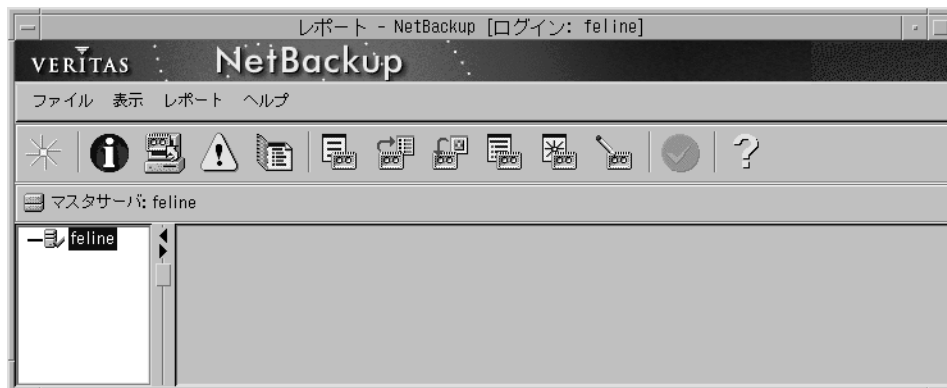
USEMAIL エントリの例を以下に示します。

```
USEMAIL=jdoe@null.com
```

Windows NT/2000 クライアントには、対応するオプションがありません。








## レポートの生成

NetBackup には、バックアップ操作の確認、管理、およびトラブルシューティングに関する総合的なレポートのセットが用意されています。レポートを表示するには、[NetBackup 管理] ウィンドウで [レポート] アイコンをクリックします。[レポート] ウィンドウが表示されます。



レポート	アイコン	説明
バックアップのステータス		指定期間内に完了したバックアップのステータスとエラーに関する情報。
クライアント バックアップ		指定期間内に完了したバックアップに関する詳細情報。
バックアップに関する問題		指定期間内にサーバによってログに記録された問題。この情報は、[すべてのログ エントリ] レポートの情報のサブセットです。



レポート	アイコン	説明
すべてのログ エントリ		指定期間内のすべてのログ エントリ。このレポートには、[問題] レポートと [メディア ログ] レポートの情報が含まれます。
メディア リスト		<b>NetBackup</b> メディア カタログの単一またはすべてのメディア ID に関する情報。このレポートは、ディスク ストレージ ユニットには使用できません。
メディアの内容		メディアから直接読み取られたメディアの内容。このレポートには、個別のファイルではなく、単一のメディア ID 上にあるバックアップ ID が表示されます。このレポートは、ディスク ストレージ ユニットには使用できません。
メディア上のイメージ		<b>NetBackup</b> ファイル カタログに記録されたメディアの内容。このオプションは、ディスク ストレージ ユニットを含むすべての種類のストレージ ユニットに使用できます。
メディア ログ		<b>NetBackup</b> エラー カタログに記録されたメディア エラー。この情報は、[すべてのログ エントリ] レポートの情報のサブセットです。
メディアのサマリ		有効期限日に基づいてグループ化されたアクティブ メディアと非アクティブ メディアのサマリ。このレポートには、メディアの有効期限日とリテンション レベル別のメディア数が表示されます。
書き込み済みメディア		指定期間内にバックアップに使用されたリムーバブル メディア。このレポートには、複製に使用されたメディアが表示されます。ただし、元のバックアップが指定期間の前に作成された場合に限ります。

**注** レポートの内容より詳しい情報が必要な場合は、アクティビティの詳細ログを有効にすることができます。詳細については、『**NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX**』を参照してください。

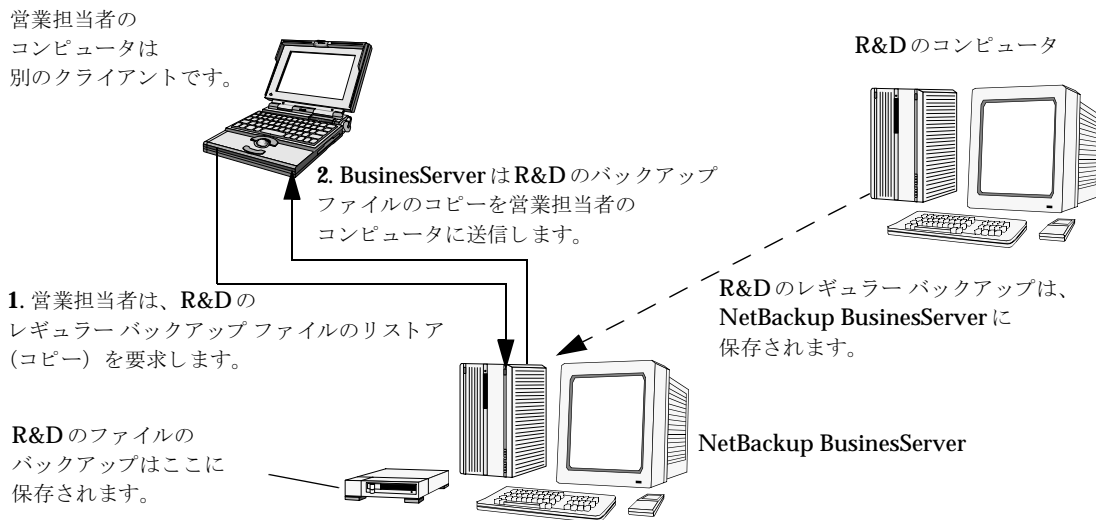
## 別のクライアントへのリストアを許可するためのサーバの設定

ファイルをバックアップした元のクライアントとは異なるクライアントにファイルをリストアする場合があります。バックアップ元でないクライアントを「別のクライアント」と呼び、このような操作を「別のクライアントへのリストア」と呼びます。

セキュリティ上の理由から、通常は別のクライアントへのリストアは禁止されています。ただし、**NetBackup** クライアントのユーザ インタフェースには、別のクライアントへのリストアを実行するためのオプションがあります。このオプションを使用できるように**NetBackup** サーバが設定されている場合は、別のクライアントへのリストアを実行できます。この設定を行うには、サーバの `/usr/opensv/netbackup/db/altnames` ディレクトリにファイルを追加します。ファイルの詳細な設定手順については、『**NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX**』を参照してください。

**注意** `/usr/opensv/netbackup/db/altnames` ディレクトリは、セキュリティ違反を起こすことがあります。バックアップ内のファイルをローカルに作成する権利があるユーザは、ほかのクライアントのファイルを選択してリストアできるためです。

次の図は、別のクライアントにバックアップされたファイルのコピー（リストア）を**NetBackup** クライアントから要求する方法を示しています。この例では、営業担当者が**NetBackup** サーバに対して**R&D**のファイルを営業担当者のコンピュータに送信することを要求しています。営業担当者のコンピュータが別のクライアントです。



## NetBackup クライアント インタフェースの使い方

NetBackup BusinessServer の強力な機能の 1 つに、ユーザがリモート NetBackup クライアントを通じて各自のローカル コンピュータのファイル、フォルダ、およびレジストリのバックアップ、アーカイブ、およびリストアを実行できることがあります。

### Windows 95/98/2000/NT 4.0

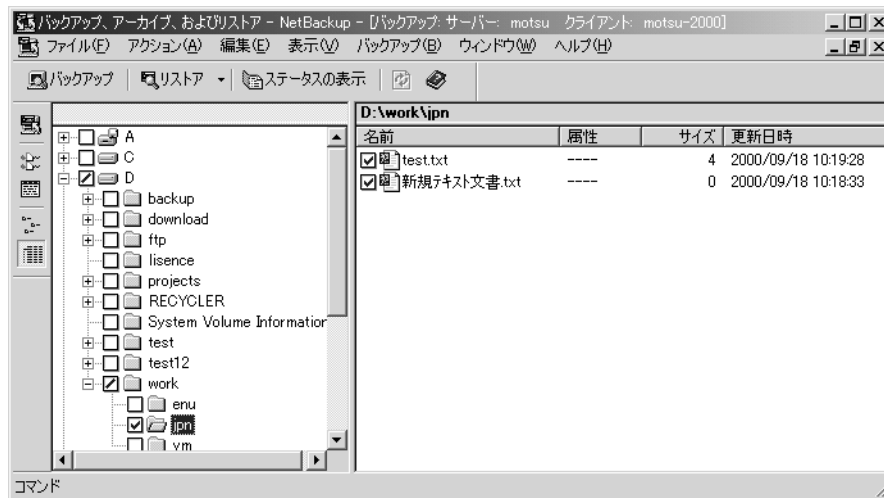
ここでは、NetBackup for Windows インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide - Microsoft Windows』を参照してください。

#### インタフェースの起動方法

Windows の [スタート] メニューの [プログラム] をポイントします。次に、[VERITAS NetBackup] をポイントし、[NetBackup クライアント] をクリックします。NetBackup クライアント インタフェースが表示されます。

#### バックアップ方法

1. [バックアップ] をクリックします。
2. 必要に応じて、ツリー内を下に移動し、バックアップするファイルまたはフォルダを指定します。バックアップする項目を指定するには、カーソルが手の形になったときに項目のチェックボックスをクリックしてチェック マークを付けます。

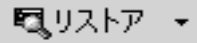


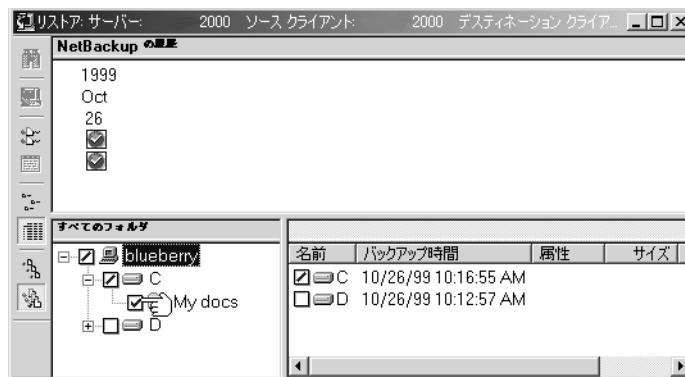
3. [バックアップ] メニューの [選択したファイルのバックアップ処理を開始] をクリックします。

4. [バックアップ オプションの指定] ダイアログ ボックスの [バックアップの開始] をクリックします。

バックアップが開始されると、その進行状況を表示することができます。

### リストア方法

1. [リストア]  の横にある下方向矢印をクリックし、[バックアップからリストア] を選択します。
2. 必要に応じて、ツリー内を下に移動し、リストアするファイルまたはフォルダを指定します。項目を指定するには、カーソルが手の形になったときに項目のチェックボックスをクリックしてチェック マークを付けます。



3. [リストア] メニューの [選択したファイルのリストア処理を開始] をクリックします。
4. [リストア オプションの指定] ダイアログ ボックスの [リストア オプション] で、[既存のファイルの上書き] を選択します。
5. [リストアの開始] ボタンをクリックします。

## NetWare Target

ここでは、NetBackup for Novell Netware - Target インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide Target Version - Novell NetWare』を参照してください。

### インタフェースの起動方法

NetWare ファイル サーバのコンソールから、bp.nlm をロードします。NetBackup クライアント インタフェースが表示されます。

### バックアップ方法

1. メイン メニューで、「**b**」 (**User Directed Backup**) と入力します。
2. NetBackup のサーバ名とターゲット名が正しいかどうかを確認します。
3. 「**b**」 (**Initiate Backup**) と入力します。
4. 「**y**」 と入力してバックアップを開始します。

### リストア方法

1. メイン メニューで、「**r**」 (**Restore Backups**) と入力します。
2. [Path]、[Start Date]、[End Date]、[Master Server]、[Browse Client]、および [Browse Target] の各フィールドが正しいことを確認します。
3. 「**s**」 と入力してバックアップ履歴を検索します。
4. リストアするファイルとディレクトリを選択し、「**o**」 (**OK**) と入力します。
5. 「**r**」 と入力してリストアを開始します。
6. プロンプトに従います。
  - a. 上書きするには、「**y**」 と入力します。
  - b. プログレス ログに対しては、「**y**」 と入力します。
  - c. サーバにリストア要求を送るには、「**y**」 と入力します。

## NetWare NonTarget

ここでは、NetBackup for Novell Netware - NonTarget インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide NonTarget Version - Novell NetWare』を参照してください。

### インタフェースの起動方法

Windows の [ スタート ] メニューの [ プログラム ] をポイントします。次に、[ VERITAS NetBackup ] をポイントし、[ NetBackup for NetWare ] をクリックします。NetBackup クライアント インタフェースが表示されます。



### バックアップ方法

1. **[Action]** メニューの **[Backup Files and Folders]** をクリックします。
2. **SDMR** をダブルクリックします。
3. **TSA** をダブルクリックします。
4. ターゲットをダブルクリックします。
5. ユーザ名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。
6. **NetBackup** バックアップ ウィンドウで、バックアップするファイルまたはフォルダを指定します。
7. **[Backup]** メニューの **[Backup Marked Files]** をクリックします。
8. **[Backup Marked Files]** ダイアログ ボックスで **[Start Backup]** をクリックします。

### リストア方法

1. **[Restore]** をクリックし、**[Action]** メニューの **[Restore from Backup]** をクリックします。
2. **[NetBackup Restore]** ウィンドウで、リストアするファイルまたはフォルダを指定します。
3. **[Restore]** メニューの **[Restore Marked Files]** をクリックします。
4. ユーザ名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。
5. **[Restore Marked Files]** ダイアログ ボックスで、**[Overwrite the existing file]** を選択します。
6. **[Restore Marked Files]** ダイアログ ボックスで、**[Start Restore]** をクリックします。



## Macintosh

ここでは、NetBackup for Macintosh インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide - Macintosh』を参照してください。

### インタフェースの起動方法

1. Macintosh のハードディスク アイコンをダブルクリックします。
2. [NetBackup Browser] フォルダの [NetBackup] アプリケーション アイコンをダブルクリックします。

### バックアップ方法

1. [Choose Files to Backup or Archive] をクリックします。
2. [Backup or Archive Files] ウィンドウで、バックアップするファイルまたはフォルダを指定します。
3. [Start Backup] をクリックします。
4. [Backup the Items Marked] を選択します。
5. [Start Backup] をクリックします。

### リストア方法

1. [Choose Files to Restore] をクリックします。
2. リストアするファイルまたはフォルダを指定します。
3. [Start Restore] をクリックします。
4. [Overwrite Existing files] を選択します。
5. [Start Resotore] をクリックします。

## OS/2 Warp

NetBackup for OS/2 Warp には、GUI または コマンドライン インタフェースがありません。OS/2 Warp コンソールからユーザ レベルの操作を行うことはできません。操作はすべてサーバから開始します。





## UNIX

ここでは、Java ユーザ インタフェースのクイック スタート手順について説明します。詳細については、『NetBackup User's Guide - UNIX』を参照してください。

**注** このインタフェースは、サポートされている Solaris クライアントと HP クライアントだけで使用できます。ほかのタイプの UNIX クライアントについては、『NetBackup User's Guide - UNIX』で xbp インタフェースの使い方を参照してください。

### インタフェースの起動方法

1. [バックアップ、アーカイブ、およびリストア] インタフェースを起動する UNIX NetBackup コンピュータにログインします。

2. [バックアップ、アーカイブ、およびリストア] インタフェースを起動するには、以下のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/jbpSA &
```

コマンドの使い方を参照する場合は、次のように入力します。 **jbpSA -h**

[ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. バックアップ、アーカイブ、またはリストアを実行するクライアントの名前を入力します。そのクライアントでの有効なユーザ アカウントと、そのクライアントへのアクセス権が必要です。
4. ユーザ名を指定します。
  - ◆ UNIX クライアントの場合は、クライアント名を入力します。
  - ◆ Windows クライアントの場合は、**domain%username** という形式で、ドメインとクライアント名を入力します。たとえば、以下のように入力します。

```
ourcompany%gla
```

5. パスワードを入力します。

6. [ログイン] をクリックします。

[バックアップ、アーカイブ、およびリストア - NetBackup] ウィンドウが表示されます。

### バックアップ方法

1. [ファイルのバックアップ] タブをクリックします。
2. バックアップするファイルを指定します。



3. [バックアップ]をクリックしてバックアップ操作を開始します。
4. [ファイルのバックアップ]ダイアログ ボックスが表示されます。
5. バックアップまたはアーカイブにキーワード フレーズを対応付けるには、[このバックアップまたはアーカイブと関連付けるキーワードフレーズ (省略可)]ボックスにキーワード フレーズを入力します。キーワード フレーズが対応付けられたバックアップまたはアーカイブをリストアする際は、そのキーワード フレーズを使用して簡単に検索できます。
  - ◆ バックアップ後にバックアップ元のファイルを削除する場合は、[ファイルのアーカイブ]を選択します。
  - ◆ バックアップ対象のファイルのリストから特定のファイルを削除するには、そのファイルを選択し、[リストから削除]をクリックします。
6. [バックアップの開始]をクリックしてバックアップ操作を開始します。
7. NetBackup の操作が完了するまでに、数分かかる場合があります。バックアップ操作のステータスを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。[はい]をクリックして[タスク処理]タブを開きます。

### リストア方法

1. [ファイルのリストア]タブをクリックします。
2. [バックアップ タイプ]ドロップダウン リストから、実行するリストアの種類を選択します。
3. リストアするフォルダまたはファイルを選択します。
4. [リストア]をクリックします。
5. [リストアの開始]をクリックしてリストア操作を開始します。
6. リストア操作のステータスを表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。[はい]をクリックして[タスク処理]タブを開きます。

## トラブルシューティング

---

## 5

ここでは、NetBackupBusinessServerのトラブルシューティング手順について説明します。  
NetBackupトラブルシューティングウィザードについても紹介します。エラーコードと問題の  
解決策の詳細については、『NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX』を参照してください。



## トラブルシューティング手順

1. バックアップまたはリストアが失敗した場合は、トラブルシューティング ウィザードまたは『**NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX**』で、問題の発生源（クライアント、サーバ、ネットワークなど）を特定します。このウィザードの使い方については、「トラブルシューティング ウィザード」（91 ページ）を参照してください。

『**NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX**』では、このウィザードに含まれていない追加情報を参照できます。

2. **NetBackup** によってサポートされている設定が使用されているかどうかを確認します。  
サーバとクライアントのプラットフォームおよび OS のバージョンを確認します。ロボットとドライブのファームウェア レベルも確認します。
3. **NetBackup** クライアントおよびサーバのパッチ レベルが最新であるかどうかを確認します。**VERITAS** のサポート サイトで、現在の問題に関するパッチがあるかどうかを確認します。サポート情報は、以下のサイトで入手できます。

[www.veritas.com](http://www.veritas.com)

4. 問題が解決されない場合は、**VERITAS** のサポート サイトで、問題の解決に役立つと思われる **TechNote** を検索します。**TechNote** は、以下のサイトにあります。

[seer.support.veritas.com/srchengine/techsearch.asp?ddProduct=NetBackup](http://seer.support.veritas.com/srchengine/techsearch.asp?ddProduct=NetBackup)

5. 上記の方法でも問題が解決しない場合は、以下の **VERITAS** カスタマ サポートまでお問い合わせください。

日本: (03) 3509-9210

米国およびカナダ: 1-800-342-0652

その他の地域: +1-650-335-8555



## トラブルシューティング ウィザード

このウィザードを使用すると、NetBackup BusinessServer のトラブルシューティングを行うことができます。NetBackup のトラブルシューティングの詳細については、『NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX』を参照してください。

### トラブルシューティング ウィザードへのアクセス

トラブルシューティング ウィザードは、[アクティビティ モニタ] ウィンドウから開くことができます。

1. [ステータス] カラムの値が 0 以外のジョブを選択します (次の図を参照)。

マスタ	ジョブ ID	タイプ	状態	ステータス	クラス	スケジュール	クライアント	メディアサ...	開始日時
feline	449	バックアップ	完了	0	feline_motsu	Full	feline	feline	10/01/20... 00
feline	448	バックアップ	完了	0	mao	incremental	10.51.22...	feline	09/30/20... 00
feline	444	リストア	完了	0			feline		09/30/20... 00
feline	430	バックアップ	完了	198	ALL	ALL	feline		09/30/20... 00

Summary: キューに追加: 11 | キューに再追加: 0 | アクティブ: 1 | 完了: 28 | 合計: 40 | マスタサーバ: feline

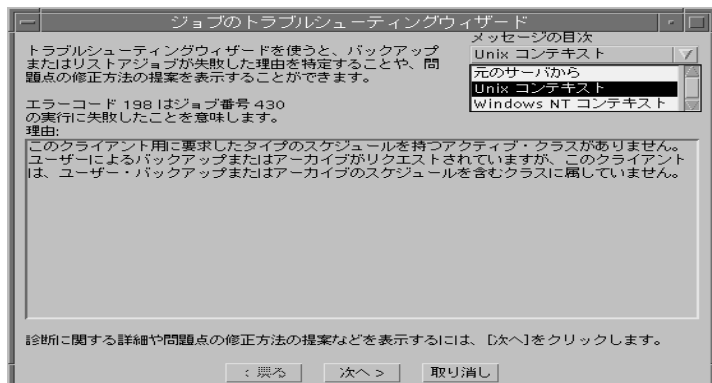
2. [ヘルプ] メニューの [トラブルシューティング] をクリックします。トラブルシューティング ウィザードが開きます。

### トラブルシューティング ウィザードの使い方

トラブルシューティング ウィザードでは、ジョブの失敗の原因となった問題を診断し、解決します。問題を解決したら、ジョブを呼び出したクラスによる再試行を待つか、またはクラスのバックアップを手動で直ちに開始します。詳細については、「NetBackup 設定のテスト」(75 ページ)を参照してください。



トラブルシューティング ウィザードの [メッセージの目次] で、UNIX または Windows NT/2000 のエラー コードの説明を選択できます (次の図を参照)。デフォルトでは、使用している NetBackup サーバのプラットフォーム タイプに設定されています。



## 関連マニュアル

## A

ここでは、NetBackup のテクニカル マニュアルについて説明します。

各 NetBackup 製品の CD-ROM には、PDF (Adobe Portable Document Format) の関連マニュアルが含まれています。PDF ファイルは、CD-ROM のルート ディレクトリまたは Docs ディレクトリにあります。

マニュアルを PDF で参照するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。Adobe Acrobat Reader は、Adobe Web サイト ([www.adobe.com](http://www.adobe.com)) からダウンロードできます。ただし、VERITAS では、Acrobat Reader のインストールや使用に関して一切の責任を負いません。

### リリース ノート

#### 『NetBackup Release Notes』

NetBackup ソフトウェアに関する重要な情報 (サポートされているプラットフォームやオペレーティング システム、マニュアルやオンライン ヘルプにはない操作上の留意事項など) が掲載されています。

### 入門ガイド

#### 『NetBackup BusinessServer Getting Started Guide - UNIX』

UNIX NetBackup BusinessServer ソフトウェアをインストールおよび実行する方法が説明されています。

### 『Getting Started Card』

#### ◆ 『NetBackup FastBackup - Getting Started Card』

NetBackup FastBackup のインストール要件と手順が掲載されています。

#### ◆ 『NetBackup BusinessServer Getting Started Card - UNIX』

UNIX サーバの NetBackup BusinessServer のインストール要件と手順が掲載されています。



## インストール ガイド

- ◆ 『NetBackup Installation Guide - PC Clients』

NetBackup PC クライアント ソフトウェアをインストールする方法が説明されています。PC クライアントとは、Windows 2000、Windows NT、Windows 95、Windows 98、Macintosh、OS/2 Warp、およびNovell NetWareです。

- ◆ 『NetBackup DataCenter Installation Guide - UNIX』

NetBackup DataCenter ソフトウェアをインストールする方法が説明されています。

## システム管理者ガイド - 基本製品

- ◆ 『NetBackup DataCenter System Administrator's Guide - UNIX』

UNIX システムで NetBackup DataCenter を設定し、管理する方法が説明されています。

- ◆ 『NetBackup BusinessServer System Administrator's Guide - UNIX』

UNIX サーバで NetBackup BusinessServer を設定し、管理する方法が説明されています。

- ◆ 『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administrator's Guide - UNIX』

NetBackup DataCenter を実行する UNIX サーバでストレージ デバイスとストレージ メディアを設定し、管理する方法が説明されています。Media Manager は、NetBackup の一部に含まれています。

- ◆ 『NetBackup BusinessServer Media Manager System Administrator's Guide - UNIX』

NetBackup BusinessServer を実行する UNIX サーバでストレージ デバイスとストレージ メディアを設定し、管理する方法が説明されています。Media Manager は、NetBackup BusinessServer の一部に含まれています。

## システム管理者ガイド - エージェントとオプション

- ◆ 『NetBackup for DB2 on UNIX System Administrator's Guide』

UNIX で NetBackup for DB2 をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。

この製品については、IBM の以下のマニュアルもご利用ください。

『IBM DB2 Universal Database Extended Enterprise Edition for AIX Quick Beginnings for DB2 Extended Enterprise Edition』

『API Ref IBM DB2 Universal Database API Reference Version 5』

『Guide IBM DB2 Universal Database Administration Guide Version 5』

『Cmd Ref IBM DB2 Universal Database Command Reference』





## ◆ 『NetBackup for DB2 on Windows NT System Administrator's Guide』

Windows NT で NetBackup for DB2 をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。

この製品については、IBM の以下のマニュアルもご利用ください。

『IBM DB2 Universal Database Extended Enterprise Edition for AIX Quick Beginnings for DB2 Extended Enterprise Edition』

『API Ref IBM DB2 Universal Database API Reference Version 5』

『Guide IBM DB2 Universal Database Administration Guide Version 5』

『Cmd Ref IBM DB2 Universal Database Command Reference』

## ◆ 『NetBackup for EMC System Administrator's Guide』

NetBackup for EMC をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。

## ◆ 『NetBackup Encryption System Administrator's Guide』

NetBackup 暗号化ソフトウェアをインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup 暗号化ソフトウェアを使用すると、バックアップおよびアーカイブに対してファイルレベルの暗号化を実行できます。

## ◆ 『NetBackup FlashBackup System Administrator's Guide』

NetBackup FlashBackup をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。FlashBackup 製品により、raw パーティションのバックアップのパフォーマンスが向上し、個別のファイルをリストアできるようになります。

## ◆ 『NetBackup for Informix System Administrator's Guide』

NetBackup for Informix をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup for Informix を使用すると、UNIX NetBackup クライアントにある Informix データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Informix Software Incorporated の以下のマニュアルもご利用ください。

『Informix-Online Dynamic Server Backup and Restore Guide』

## ◆ 『NetBackup for Lotus Notes on Windows NT System Administrator's Guide』

NetBackup for Lotus Notes をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup for Lotus Notes を使用すると、Lotus Notes のデータベースとトランザクション ログのバックアップとリストアを実行できます。

## ◆ 『NetBackup for Lotus Notes on UNIX System Administrator's Guide』

NetBackup for Lotus Notes をインストール、設定、および使用する方法が説明されています。NetBackup for Lotus Notes を使用すると、Lotus Notes のデータベースとトランザクション ログのバックアップとリストアを実行できます。



◆ 『NetBackup for Microsoft Exchange Server System Administrator's Guide』

NetBackup for Microsoft Exchange Server を設定し、使用方法が説明されています。NetBackup for Microsoft Exchange Server を使用すると、Microsoft Exchange Server のオンラインバックアップとオンラインリストアを実行できます。

Microsoft Corporation の以下のリソースもご利用ください。

Microsoft Exchange Server のホワイトペーパーと FAQ

(<http://www.microsoft.com/exchange> で「Disaster Recovery」を検索)

『Microsoft Exchange Administrator's Guide』

『Microsoft Exchange Concepts and Planning Guide』

『Microsoft TechNet』

『Microsoft BackOffice Resource Kit』

<http://www.msexchange.org>

◆ 『NetBackup for Microsoft SQL Server System Administrator's Guide』

NetBackup for Microsoft SQL Server をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for Microsoft SQL Server を使用すると、Microsoft SQL Server のデータベースとトランザクション ログのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Microsoft Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Administrator's Companion - Microsoft SQL Server』

◆ 『NetBackup for NCR Teradata System Administrator's Guide』

NetBackup for NCR Teradata をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for NCR Teradata を使用すると、NCR Teradata のデータベースとトランザクション ログのバックアップとリストアを実行できます。

◆ 『NetBackup for NDMP System Administrator's Guide』

NetBackup for NDMP をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for NDMP を使用すると、NDMP ホストでバックアップを制御できます。

◆ 『NetBackup for Oracle on UNIX System Administrator's Guide』

NetBackup for Oracle をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for Oracle を使用すると、UNIX NetBackup クライアントにある Oracle データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle7 Enterprise Backup Utility Installation and Configuration Guide』

『Oracle7 Enterprise Backup Utility Administrator's Guide』

『Oracle7 Server Administrator's Guide』



『Oracle8 Server Backup and Recovery Guide』

『Oracle7 Server Administrator's Guide』

◆ 『NetBackup for Oracle on Windows NT System Administrator's Guide』

NetBackup for Microsoft Oracle をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for Microsoft Oracle を使用すると、Windows NT/2000 NetBackup クライアントにある Oracle データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle7 Enterprise Backup Utility Installation and Configuration Guide』

『Oracle7 Enterprise Backup Utility Administrator's Guide』

『Oracle7 Server Administrator's Guide』

『Oracle8 Server Backup and Recovery Guide』

『Oracle7 Server Administrator's Guide』

◆ 『NetBackup for Oracle - Advanced BLI Extension System Administrator's Guide』

NetBackup for Oracle Advanced BLI Agent をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for Oracle Advanced BLI Agent を使用すると、UNIX NetBackup クライアントにある Oracle データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle Enterprise Manager Administrator's Guide』

『Oracle8 Server Backup and Recovery Guide』

この製品については、VERITAS Software の以下のマニュアルもご利用ください。

『Database Edition for Oracle Administrator's Guide』

『Storage Edition for Oracle Administrator's Guide』

『NetBackup for Oracle - Advanced BLI Agent for Backups without RMAN System Administrator's Guide』

◆ 『NetBackup for Oracle - Advanced BLI Agent for Backups without RMAN System Administrator's Guide』

NetBackup for Oracle Advanced BLI Agent for Backups Without RMAN を検証する方法が説明されています。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle Enterprise Manager Administrator's Guide』

『Oracle8 Server Backup and Recovery Guide』

この製品については、VERITAS Software の以下のマニュアルもご利用ください。



『Database Edition for Oracle Administrator's Guide』

『Storage Edition for Oracle Administrator's Guide』

『NetBackup for Oracle - Advanced BLI Extension System Administrator's Guide』

- ◆ 『NetBackup Plus Module for TME 10 System Administrator's Guide』

NetBackup / Plus Module for TME 10 をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup / Plus Module for TME 10 では、標準の NetBackup 管理者用インタフェースではなく、TME (Tivoli Management Environment TM) を使用して NetBackup を管理します。

- ◆ 『NetBackup for SAP on UNIX System Administrator's Guide』

UNIX で NetBackup for SAP をインストール、設定、および使用方法が説明されています。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle Enterprise Backup Utility Installation and Configuration Guide』

『BC SAP Database Administration : Oracle』

SAP AG の以下のリソースもご利用ください。

『BC-BRI BACKINT Interface R/3 System, Release 3.0』

- ◆ 『NetBackup for SAP on Windows NT System Administrator's Guide』

Windows NT/2000 で NetBackup for SAP をインストール、設定、および使用方法が説明されています。

この製品については、Oracle Corporation の以下のマニュアルもご利用ください。

『Oracle Enterprise Backup Utility Installation and Configuration Guide』

『BC SAP Database Administration : Oracle』

SAP AG の以下のリソースもご利用ください。

『BC-BRI BACKINT Interface R/3 System, Release 3.0』

- ◆ 『NetBackup for SYBASE System Administrator's Guide』

NetBackup for SYBASE をインストール、設定、および使用方法が説明されています。NetBackup for SYBASE を使用すると、UNIX NetBackup クライアントにある Sybase データベースのバックアップとリストアを実行できます。

この製品については、SYBASE Incorporated の以下のマニュアルもご利用ください。

『SYBASE SQL Server Utility Programs for Unix』

『SYBASE SQL Server Administration Guide』



## ユーザガイド

- ◆ 『NetBackup User's Guide - Macintosh』

Macintosh クライアントの NetBackup を使用してバックアップ、アーカイブ、およびリストアを行う方法が説明されています。このガイドには、NetBackup クライアント ソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

- ◆ 『NetBackup User's Guide - Microsoft Windows』

Windows 2000、Windows NT、Windows 95、または Windows 98 クライアントの NetBackup を使用してバックアップ、アーカイブ、およびリストアを行う方法が説明されています。このガイドには、NetBackup クライアント ソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

- ◆ 『NetBackup User's Guide NonTarget Version - Novell NetWare』

Novell NetWare サーバの NetBackup NonTarget ソフトウェアを使用してバックアップとリストアを行う方法が説明されています。NonTarget バージョンの NetBackup には、Microsoft Windows のインタフェースが用意されています。このガイドには、NetBackup クライアント ソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

- ◆ 『NetBackup User's Guide Target Version - Novell NetWare』

Novell NetWare サーバの NetBackup Target ソフトウェアを使用してバックアップとリストアを行う方法が説明されています。Target バージョンの NetBackup には、DOS で実行するメニュー形式のインタフェースが用意されています。このガイドには、NetBackup クライアント ソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

- ◆ 『NetBackup BusinessServer User's Guide - OS/2 Warp』

IBM OS/2 Warp クライアントの NetBackup を使用してバックアップとリストアを行う方法が説明されています。このガイドには、NetBackup クライアント ソフトウェアの設定手順の一部も記載されています。

- ◆ 『NetBackup User's Guide - UNIX』

UNIX クライアントの NetBackup を使用してバックアップ、アーカイブ、およびリストアを行う方法が説明されています。



## デバイス設定ガイド - Media Manager

- ◆ 『NetBackup Media Manager Device Configuration Guide』

UNIXホストで、NetBackup DataCenter と NetBackup BusinessServer の Media Manager によってサポートされているストレージ デバイスに対して、デバイス ドライバの追加などのシステム レベルの設定を行う方法が説明されています。

## トラブルシューティング ガイド

- ◆ 『NetBackup Troubleshooting Guide - UNIX』

UNIX ベースの NetBackup 製品のトラブルシューティングに関する情報が記載されています。

# NetBackup BusinessServer とクライアントの アンインストール

**B**

この付録では、NetBackup BusinessServer ソフトウェアのアンインストールについて説明します。

## BusinessServer のアンインストール方法 (Solaris)

1. root ユーザとしてサーバにログインします。
2. カタログ バックアップを実行します。
3. NetBackup と Media Manager のデーモンを終了します。  

```
/usr/opensv/netbackup/bin/goodies/bp.kill_all
```
4. 以下のアンインストール スクリプトを実行します。  

```
pkgrm SUNWnetbp SUNWmmgr
```
5. 「Is this an upgrade?」というプロンプトに対して、「no」と答えます。
6. 「yes」と答えて、空でないディレクトリを削除します。
7. /etc/services ファイルを /etc/services\_*mmddy.yh:mm:ss* ファイルに置き換えます。  
*mmddy.yh:mm:ss* は、元のインストールの日付と時間です。
8. /etc/inetd.conf ファイルを /etc/inetd.conf.NB\_MM.*version* に置き換えます。  
*version* は、元のインストールのバージョンです。
9. 以下のシェル コマンドを実行すると、inetd が更新された inetd.conf ファイルを読み取ります。  

```
ps -ea | grep inetd
```

以下に示すように、kill コマンドを実行します。process ID は、ps コマンドの出力に表示される最初の番号です。

```
kill -1 process ID
```



**ps** コマンドのオプションは、クライアントのプラットフォームによって異なることがあります。

10. 以下のファイルを削除します。

```
rm -f /etc/rc2.d/S77netbackup
rm -f /etc/rc0.d/K77netbackup
```

11. 以下のコマンドを実行して **NetBackup Java** アプリケーションの **root** ユーザのアカウントの状態データを削除します。

```
/bin/rm -rf /.nbjava
```

12. **NetBackup Java** ユーザに対して、**\$HOME/.nbjava** ディレクトリを削除できることを通知します。

**\$HOME/.nbjava** ディレクトリには、ユーザが **NetBackup Java** アプリケーションを終了するとき保存されるアプリケーションの状態情報（テーブル列の順序とサイズなど）が格納されています。アンインストールプロセスでは、**root** ユーザのこのディレクトリだけを削除します。

## BusinessServer のアンインストール方法 (HP)

1. **root** ユーザとしてサーバにログインします。
2. カタログ バックアップを実行します。
3. **NetBackup** と **Media Manager** のデーモンを終了します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/goodies/bp.kill_all
```

4. **/usr/opensv** ディレクトリを削除します。

**/usr/opensv** が物理ディレクトリの場合は、以下を実行します。

```
rm -rf /usr/opensv
```

**/usr/opensv** がリンクの場合は、以下を実行します。

```
cd /usr/opensv
rm -rf *
cd /
rm -f /usr/opensv
```

---

**注意** `rm -f /usr/opensv` コマンドは、このマシンにインストールされた **VERITAS Storage Migrator** 製品およびすべての **NetBackup** アドオン製品もアンインストールします。

---



5. 以下のファイルを削除します。  

```
/sbin/rc2.d/s777netbackup
```
6. `/etc/services` ファイルを `/etc/services_mmddyy.hh:mm:ss` ファイルに置き換えます。  
*mmddyy.hh:mm:ss* は、元のインストールの日付と時間です。
7. `/etc/inetd.conf` ファイルを `/etc/inetd.conf.NB_MM.version` に置き換えます。  
*version* は、元のインストールのバージョンです。
8. 以下のシェル コマンドを実行すると、`inetd` が更新された `inetd.conf` ファイルを読み取ります。  

```
ps -ea | grep inetd
```

以下に示すように、`kill` コマンドを実行します。`process ID` は、前のコマンドの出力に表示される最初の番号です。  

```
kill -1 process ID
```

`ps` コマンドのオプションは、クライアントのプラットフォームによって異なることがあります。
9. 以下のコマンドを実行して NetBackup Java アプリケーションの `root` ユーザのアカウントの状態データを削除します。  

```
/bin/rm -rf /.nbjava
```
10. NetBackup Java ユーザに対して、`$HOME/.nbjava` ディレクトリを削除できることを通知します。  
`$HOME/.nbjava` ディレクトリには、ユーザが NetBackup Java アプリケーションを終了するとき保存されるアプリケーションの状態情報（テーブル列の順序とサイズなど）が格納されています。アンインストール プロセスでは、`root` ユーザのこのディレクトリだけを削除します。

## NetBackup クライアントのアンインストール方法

注 NetBackup-Java Display Console がインストールされたマシンから NetBackup をアンインストールする場合は、NetBackup をアンインストールすると Console も削除されます。マシン上で Console を継続して使用するには、Console を再インストールする必要があります。

以下のプラットフォームで NetBackup クライアント ソフトウェアをアンインストールする手順については、『NetBackup Installation Guide - PC Clients』を参照してください。

- ◆ Windows 95/98、NT/2000



- ◆ Macintosh
- ◆ Novell NetWare
- ◆ OS/2

## UNIX NetBackup クライアント ソフトウェアのアンインストール方法

1. root ユーザとしてクライアントにログインします。
2. /usr/opensv ディレクトリを削除します。  
/usr/opensv が物理ディレクトリの場合は、以下を実行します。

```
rm -rf /usr/opensv
```

/usr/opensv がリンクの場合は、以下を実行します。

```
cd /usr/opensv
rm -rf *
cd /
rm -f /usr/opensv
```
3. /etc/services ファイルの **NetBackup** エントリを以下のように削除します。
  - ◆ クライアントの /etc/services ファイルを編集します。
  - ◆ 以下のように指定された行を検索し、それらの行を削除します。

```
# NetBackup services#
.....
# End NetBackup services #

# Media Manager services #
....
# End Media Manager services #
```
4. /etc/inetd.conf ファイルの **NetBackup** エントリを削除します。NCR の場合、このファイルは inetd.local と呼ばれます。
  - ◆ クライアントの /etc/inetd.conf ファイルを編集します。
  - ◆ bpcd、vopied、および bpjava-msvc の各行を削除します。



5. 以下のシェル コマンドを実行すると、`inetd`が更新された `inetd.conf`（または `inetd.local`）ファイルを読み取ります。
  - a. 以下のコマンドを入力します。

通常の UNIX クライアントの場合

```
ps -ea | grep inetd
```

MacOS 10、FreeBSD、およびAuspexの場合

```
ps -ax | grep inetd
```
  - b. 以下に示すように、`kill` コマンドを実行します。`process ID` は、`ps` コマンドの出力に表示される最初の番号です。

```
kill -1 process ID
```

`ps` コマンドのオプションは、クライアントのプラットフォームによって異なることがあります。
6. NetBackup の Java グラフィカル インタフェースを実行している Solaris と HP の NetBackup クライアントの場合は、以下を実行して NetBackup Java の状態データを削除します。

```
/bin/rm -rf /.nbjava
```





# 索引

---

- A
  - ALLOW\_MULTIPLE\_RETENTIONS\_PER\_MEDIA 71, 73
  - altnames ファイル 81
  - AutoRunI.exe 33
- B
  - bp.conf ファイル 12
- C
  - CDE (Common Desktop Environment)
    - NetBackup-Java 用の設定 16
  - client\_config スクリプト 31
- D
  - DNS (Domain Name Service) 13
- I
  - inetd.conf ファイル 12
  - Informix クラス タイプ 66
  - install\_client\_files スクリプト 31
  - ioscan 18
- J
  - Java Display Console 8
  - Java インタフェース、設定 16
  - jbpSA 87
    - 紹介 7
  - jnbSA 20
    - 紹介 7
- M
  - Macintosh クライアント
    - インストール 26
    - バックアップ 86
    - リストア 86
  - Media Manager 5
  - MS-Exchange クラス タイプ 66
  - MS-SQL-Server クラス タイプ 67
  - MS-Windows-NT クラス タイプ 67
  - Mwm\*keyboardFocusPolicy X リソース 16
- N
  - NetBackup
    - UNIX
      - 管理インタフェース 20
      - アシスタント 44
      - インストール 12
      - オプションのインストール 35
      - カタログ バックアップ (カタログ バックアップを参照) 61
      - レギュラー バックアップ (バックアップを参照)
      - レポート 79
    - NetBackup クライアント インタフェースの使い方 82
    - NetBackup によってサポートされているプラットフォーム 4
    - NetBackup の設定のテスト 23
    - NetWare Directory Services (NDS) ファイル 26
    - NetWare NonTarget クライアント
      - バックアップ 85
      - リストア 85
    - NetWare Nontarget クライアント
      - インストール 26
    - NetWare Target クライアント
      - バックアップ 84
      - リストア 84
    - NetWare クラス タイプ 67
    - NFS マウントしたディレクトリ 14
    - NIS (Network Information Service) 13
  - O
    - Oracle クラス タイプ 67
    - OS/2 Warp クライアント



- インストール 27
- バックアップ 86
- リストア 86
- OS/2 クラス タイプ 67
- R
  - rc2.d ディレクトリ 12
  - Rockridge フォーマットの CR-ROM 14, 28
- S
  - SCSI ID17
  - sgscan 18
  - st.conf ファイル 18
  - Standard クラス タイプ 67
  - Sybase クラス タイプ 67
- U
  - UNIX クライアント 15
    - クライアントのユーザ インタフェース (jbpSA) の起動 87
    - バックアップ 87
    - リストア 88
    - ローカル インストール 28, 32
  - UNIX クライアントの追加 32
- W
  - Windows Display Console 8
  - Windows クライアント
    - インストール 25
    - バックアップ 82
    - リストア 83
- X
  - xbp 27, 87
- あ
  - アシスタント、NetBackup 44
  - [ 圧縮 ] 68
  - アンインストール
    - NetBackup クライアント 103
    - NetBackup サーバ 101
- い
  - インストール
    - Macintosh クライアント 26
    - NetBackup のオプション 35
    - NetWare Nontarget クライアント 26
    - OS/2 Warp クライアント 27
    - UNIX クライアント 32
    - CD-ROM からのローカルに 32
    - CD-ROM からローカルに 28
    - セキュリティ 31
    - トラスティング 29
  - Windows クライアント 25
  - 管理クライアント 33
  - サーバ
    - スクリプト 12
    - 注意事項 14
    - 手順 14
    - 要件 13
  - サーバ上の UNIX クライアント 15
  - インストール要件 13
  - インタフェース
    - UNIX
      - 管理 20
    - 管理
      - NT/2 21
    - 紹介 7
    - 設定、Java 16
- う
  - ウィザード
    - NetBackup カタログ バックアップ 61
    - 概要 7
    - 初期設定 22
    - デバイスの設定 46
    - トラブルシューティング 91
    - バックアップ ポリシーの設定 62
  - ウィンドウ マネージャ、Java、設定 16
- お
  - オプション製品 9
- か
  - [ 書き込み済みメディア ] レポート 80
  - カタログ バックアップ
    - ウィザード 61
    - ウィザードからの設定 23
    - 概要 3
    - スケジュール 59
    - スタンドアロンドライブの使用 56
    - テープ 59
    - ボリューム 59
    - リストア 61
  - 管理インタフェース
    - NT/2 21



- UNIX
  - 起動方法 20
  - 紹介 7
  - 管理クライアント
    - インストール 33
    - 概要 8
    - 起動 34
      - リモート サーバのサーバ リストへの追加 33
    - 管理者
      - バックアップの通知 78
- き
  - キーワード フレーズ 68
  - 機能のアドオン 9
- く
  - クライアント
    - アンインストール 103
    - インストール (インストールを参照)
    - 概要 4
    - サポートされているプラットフォーム 4
    - 初期インストール後の追加 32
    - バックアップとリストア 82
    - ホスト名の設定 74
  - クライアントのユーザ インタフェース
    - NetWare Nontarget クライアントでの起動 84
    - NetWare Target クライアントでの起動 83, 86
    - OS/2 Warp クライアントでの起動 86
    - UNIX クライアントでの起動 87
    - Windows クライアントでの起動 82
  - [クライアント バックアップ] レポート 79
  - クライアント ユーザ インタフェース
    - 紹介 7
  - [クラス ストレージ ユニットを上書き] ユーザ スケジュール 71
  - [クラス ストレージを上書き] 自動スケジュール 73
  - クラス タイプ (バックアップ) 66
  - クラスのアクティブ化 68
  - [クラス ボリューム プールを上書き] 自動スケジュール 73
  - ユーザ スケジュール 72
  - [クロスマウントポイント] クラスに対して選択 68
  - グラフィカル ユーザ インタフェース 7
- こ
  - 更新、電子メールによる通知 viii
- さ
  - サーバ
    - インストール 12
    - 概要 3
    - 設定 19
    - サービス ファイル 12
- し
  - 手動バックアップ 76
  - 初期設定ウィザード 19, 22
  - 自動バックアップ
    - クラスに対する設定 72
    - 設定例 62
  - ジョブ プライオリティ、クラスに対する選択 68
- す
  - スクリプト
    - client\_config 31
    - install\_client\_files 31
    - サーバのインストール 12
  - スケジュール
    - (バックアップも参照)
    - カタログ バックアップ 59
    - 自動 (レギュラー) バックアップ 62
    - 自動バックアップ 72
    - ユーザ バックアップ 71
  - スタンドアロン テープの管理 56
  - スタンドアロン ドライブで手動で開始するバックアップ 58
  - ストレージ デバイス
    - 設定 46
  - ストレージ ユニット
    - 管理 48
    - 概要 5
    - クラスに対して選択 67
    - 自動スケジュールに対する選択 73
    - ユーザ スケジュールに対する選択 71
  - [すべてのログ エントリ] レポート 80
- せ
  - 設定



- 
- NetBackup のカタログ バックアップ 59
    - ウィザード (ウィザードを参照)
    - オペレーティング システムへのデバイスの設定 17
    - カタログ バックアップ 23
    - クラス 63
    - サーバ 19
    - ストレージ デバイス 46
    - ストレージ デバイスとボリューム 22
    - テスト 76
  - 設定のテスト 76
  - そ
  - ソフトウェアの更新、電子メール通知 viii
  - た
  - 多重データストリームを許可 68
  - つ
  - 通知、電子メール
    - ソフトウェアの更新 viii
    - バックアップ 78
  - て
  - テープ
    - カタログ バックアップ用 56, 59
    - スタンドアロン ドライブ 58
    - ロボティック 58
  - テープ (ボリュームを参照)
  - テープとボリュームの管理
    - スタンドアロン ドライブを使用する場合 56
  - データのバックアップの作成 23
  - データベース エージェント 9
  - デバイス
    - NetBackup の設定 46
    - オペレーティング システムへの設定 17
  - デバイスの設定ウィザード 5, 46
  - デバイス モニタ 5, 52
  - 電子メール通知
    - 製品の更新 viii
    - バックアップ 78
  - と
  - トラブルシューティング
    - ウィザード 91
    - 手順 90
  - は
  - バス アダプタ 17
  - バックアップ
    - Macintosh クライアント 86
    - NetBackup のカタログ、概要 3
    - NetWare NonTarget クライアント 85
    - NetWare Target クライアント 84
    - OS/2 Warp クライアント 86
    - UNIX クライアント 87
    - Windows クライアント 82
    - (カタログ バックアップも参照) 3
    - ウィザードからの作成 23
    - ウィザードによるバックアップ ポリシーの作成 62
    - カタログ バックアップのスケジュール 59
    - クラスの手動バックアップ 76
    - コピーと編集によるバックアップ ポリシーの作成 63
    - 手動によるバックアップ ポリシーの作成 64
    - 自動スケジュールの作成 72
    - スタンドアロン ドライブの使用 56
    - 電子メール通知 78
    - バックアップ ポリシー (レギュラー バックアップ用)、概要 2
    - ユーザ スケジュールの作成 71
    - バックアップ ステータス レポート 79
    - [バックアップのステータス] レポート 79
    - バックアップ ポリシーの設定ウィザード
    - ウィザード 62
  - ひ
  - 頻度、スケジュールに対する選択 72
  - ふ
  - ファイアウォール 27
  - ファイル リスト、設定 74
  - ファイル ロック 14
  - 複数のデータ ストリーム
    - 概要 6
    - クラスに対して選択 68
  - プライオリティ、ジョブ 68
  - へ
  - 別売りのオプション 9
  - 別のクライアントへのリストア 81





---

## ほ

- ホスト ファイル 13
- ボリューム
  - カタログ バックアップ 59
  - スタンドアロンドライブ 58
  - 定義 5
  - ロボティック 58
- ボリュームの設定ウィザード 5
- ボリューム プール
  - クラスに対して選択 68
  - 自動スケジュール 73
  - ユーザ スケジュールに対する選択 72
- ポリシー、バックアップ (バックアップも参照) 23, 62

## ま

- マルチプレキシング 6

## め

- メディア サーバ 4
- [メディア上のイメージ]レポート 80
- [メディアとデバイス管理]ユーティリティ 5, 47
- [メディアのサマリ]レポート 80
- [メディアの内容]レポート 80
- メディア マルチプレキシング
  - 概要 6
  - 自動スケジュール 73
  - ユーザ スケジュール 71
- [メディア リスト]レポート 80

- [メディア ログ]レポート 80

## も

- [問題]レポート 79

## ゆ

- ユーザ インタフェース、紹介 7
- ユーザ バックアップのスケジュール 71

## り

- リストア
  - Macintosh クライアント 86
  - NetWare NonTarget クライアント 85
  - NetWare Target クライアント 84
  - OS/2 Warp クライアント 86
  - UNIX クライアント 88
  - Windows クライアント 83
  - カタログ バックアップ 61
  - ファイル 83
  - 別のクライアント 81
- リテンション ピリオド
  - 自動スケジュール 72
  - ユーザ スケジュール 71
- リモート管理 8, 33

## れ

- レギュラー バックアップ、概要 (バックアップも参照) 2
- [レポート]ユーティリティ 79

## ろ

- ロボティック テープ 58



